

イゲトアハ

R18
ADULT
ONLY



元騎士の狩人と
元娼婦の話

メイド
・
春

Maiden
spring



あなたたちの結婚
が愛と幸福で
満ち溢れるもので
ありますように



アーメン

すごいわロマン！
上手に読める
ようになってる！

…人に言うなよ
俺が読み書き
苦手なこと…

ふふ…
意外と繊細なのね





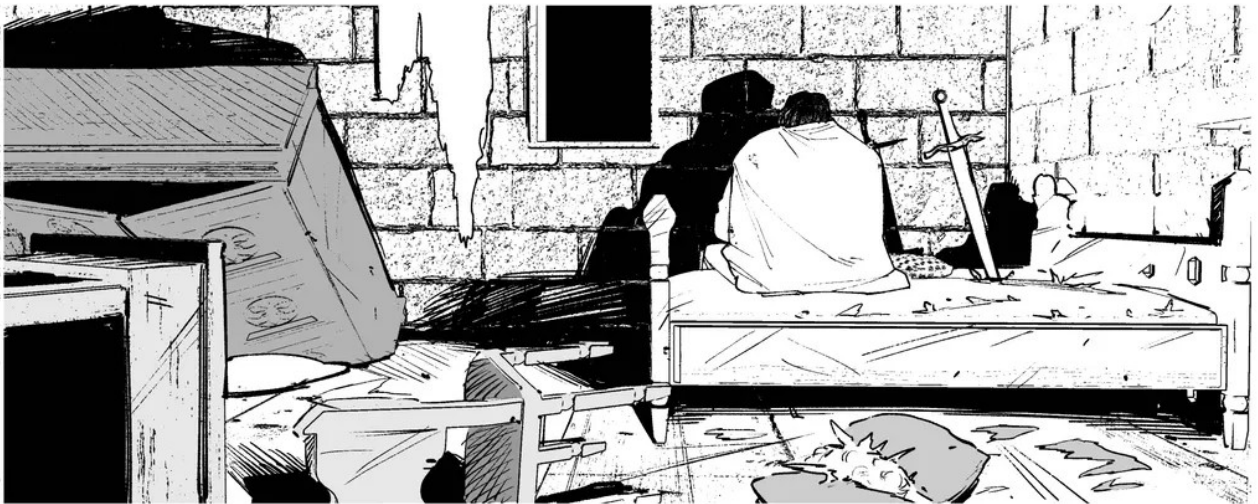
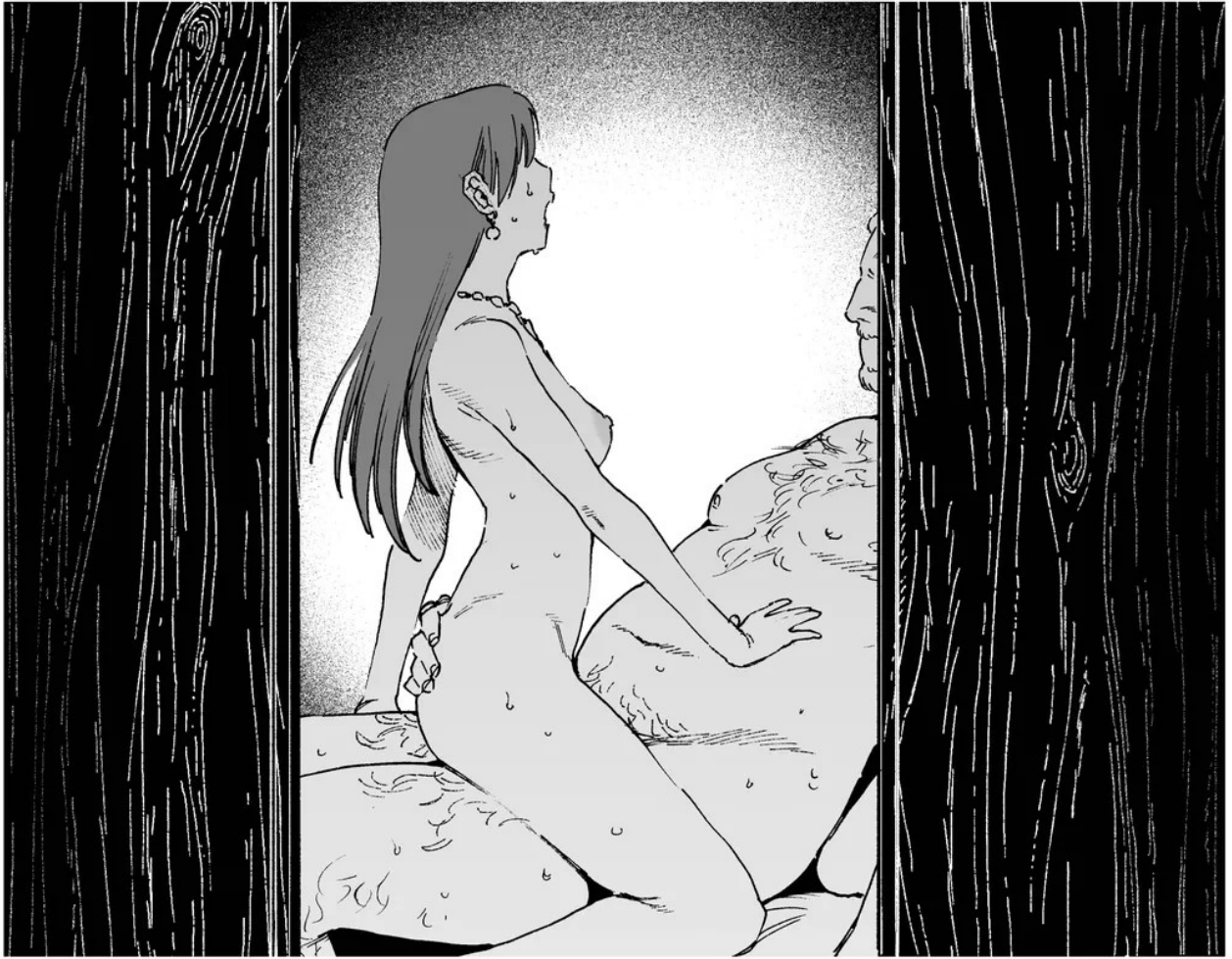
みて
目元があなたと
そっくりよ

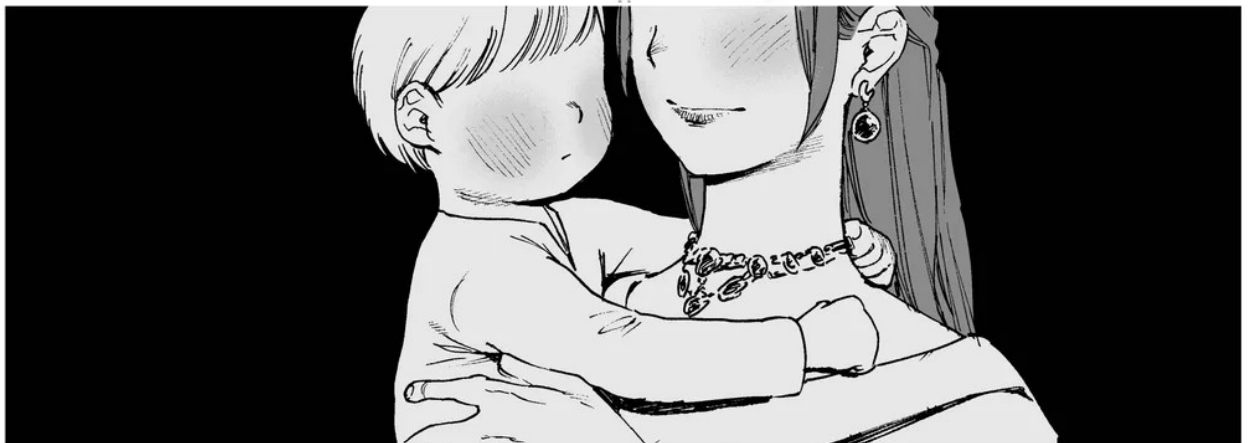
きつと
あなたみたいな
立派な騎士に
なるわ



フ…
そうだな

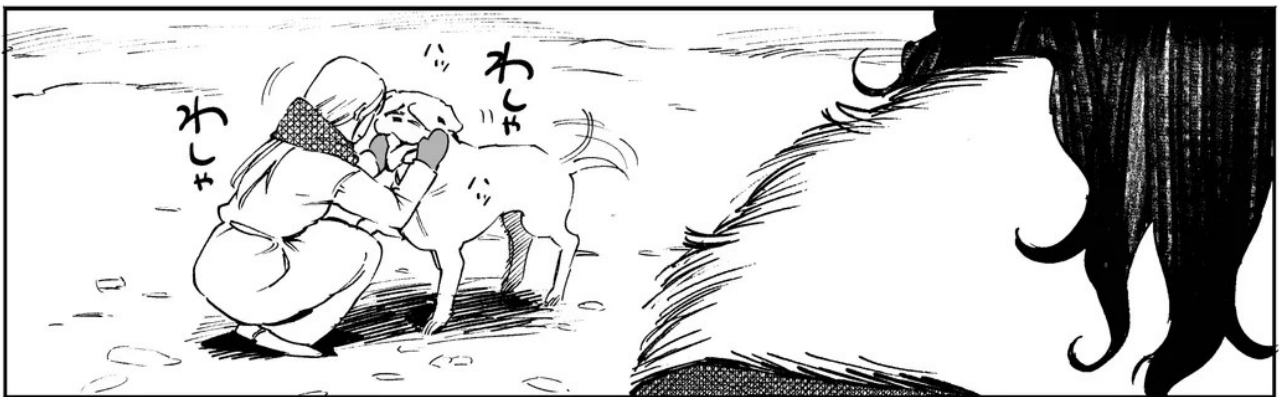
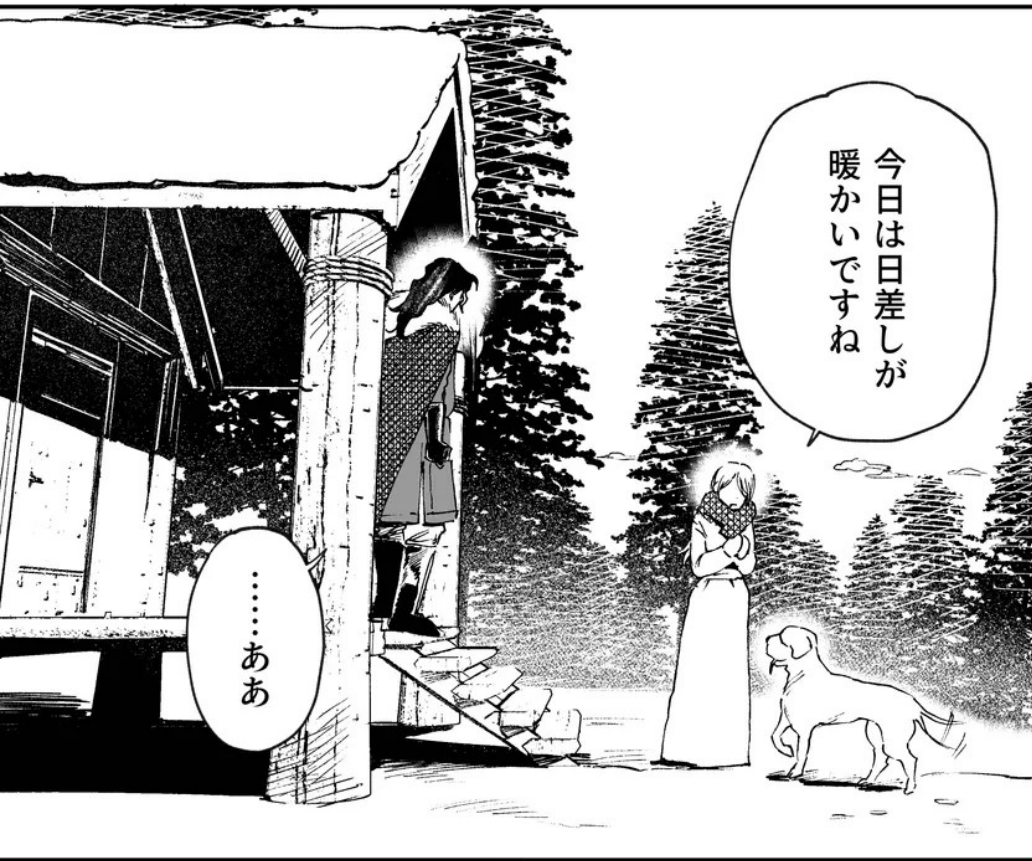












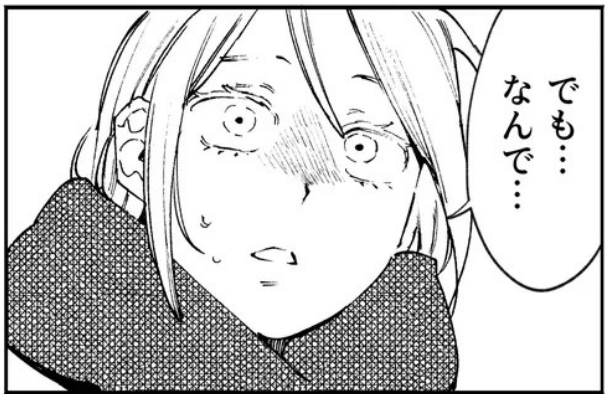


えっ!?

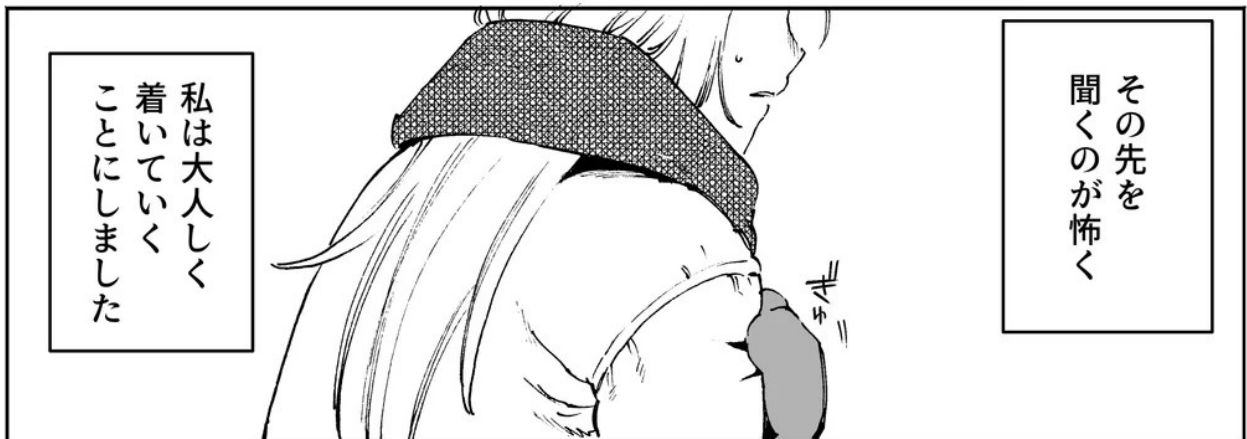
殺した衛兵の
馬を回収した
それで行く



明日
都へ向かう
お前も来い



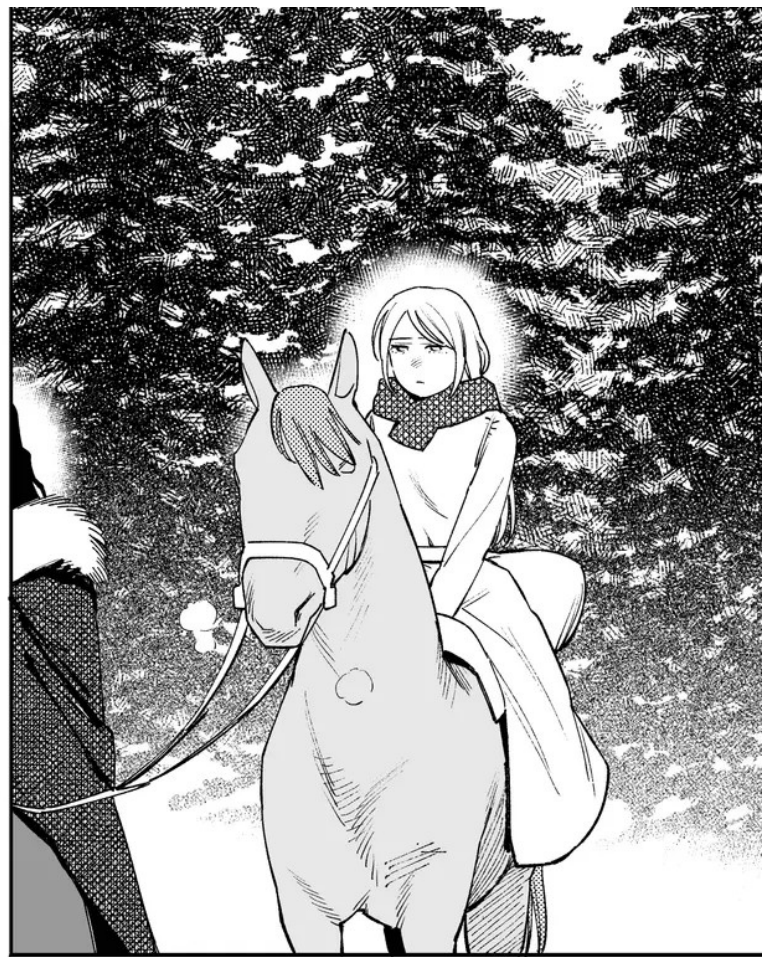
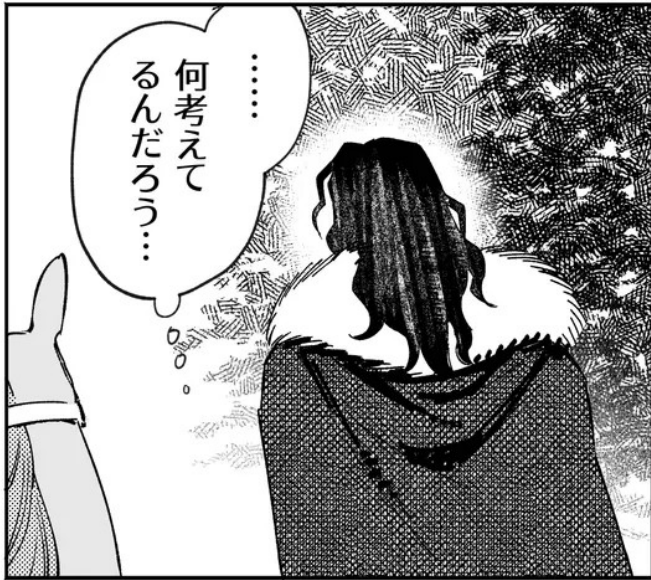
でも…
なんで…

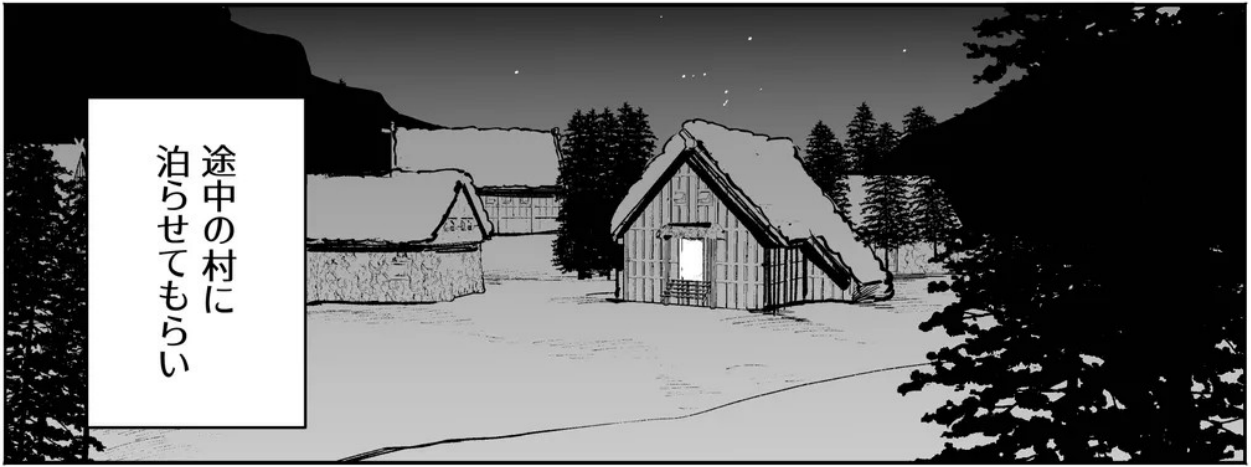


私は大人しく
着いていく
ことにしました

その先を
聞くのが怖く





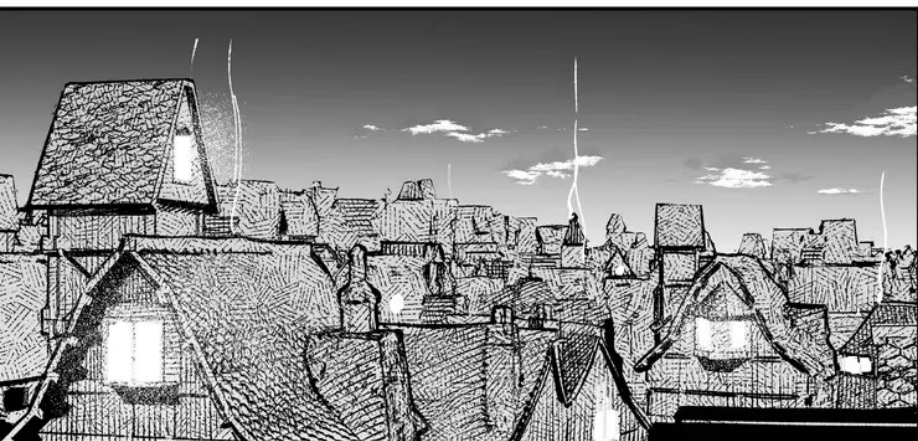


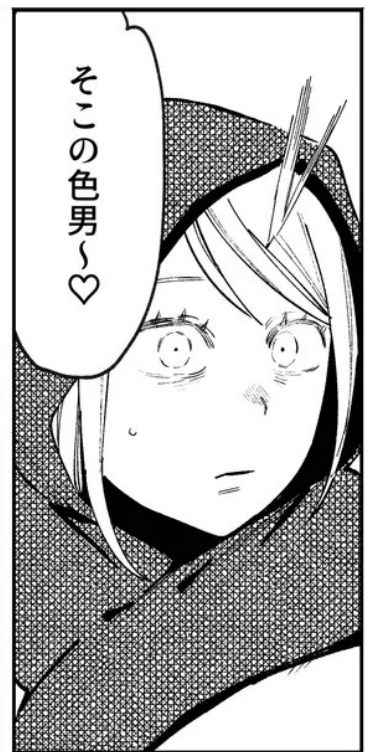
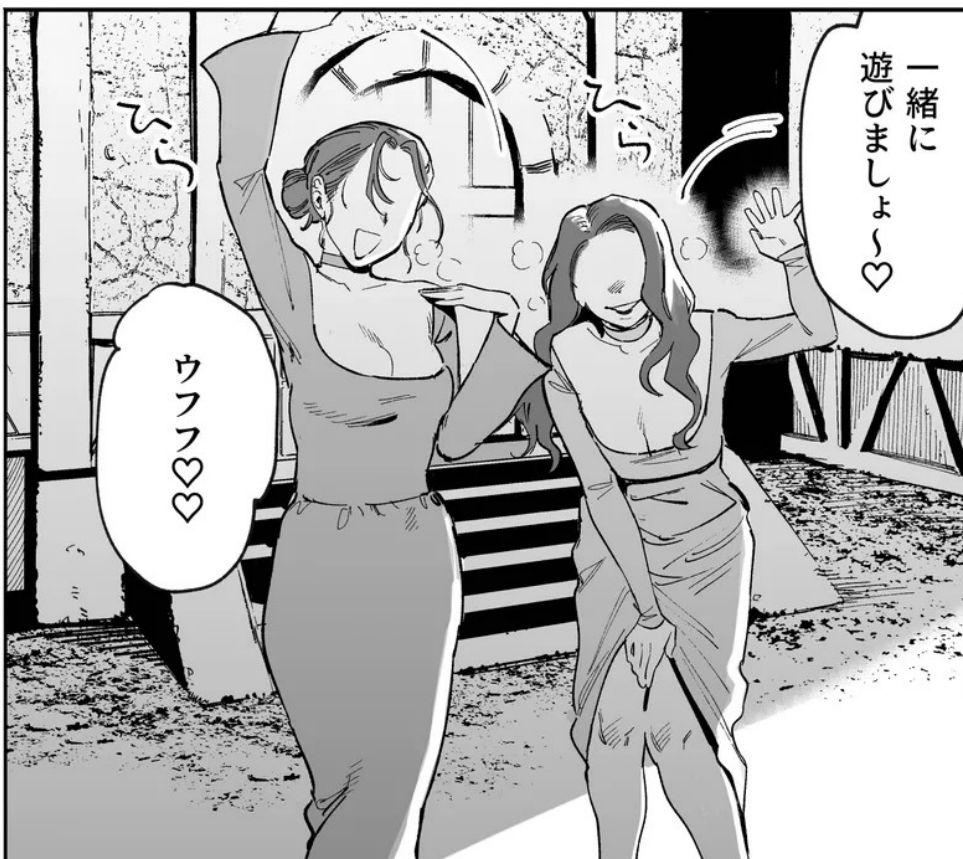
途中の村に
泊らせてもらい



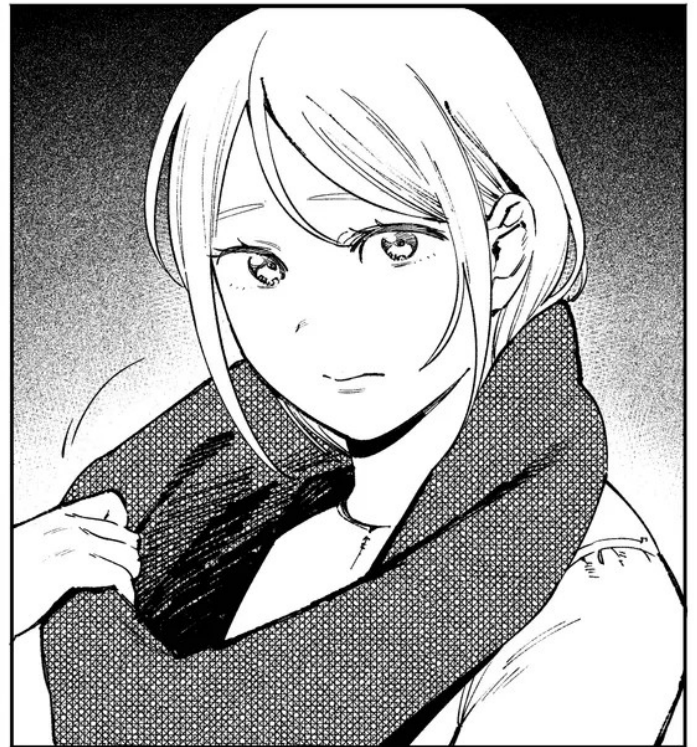
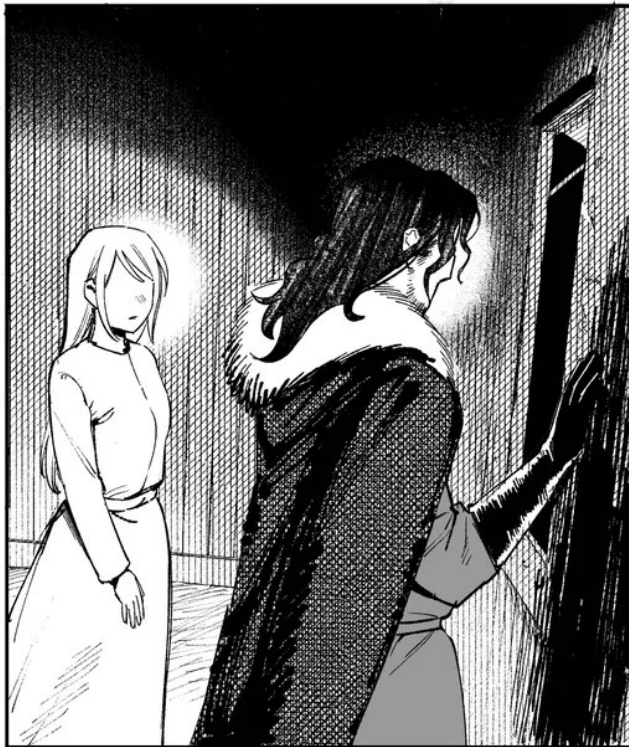
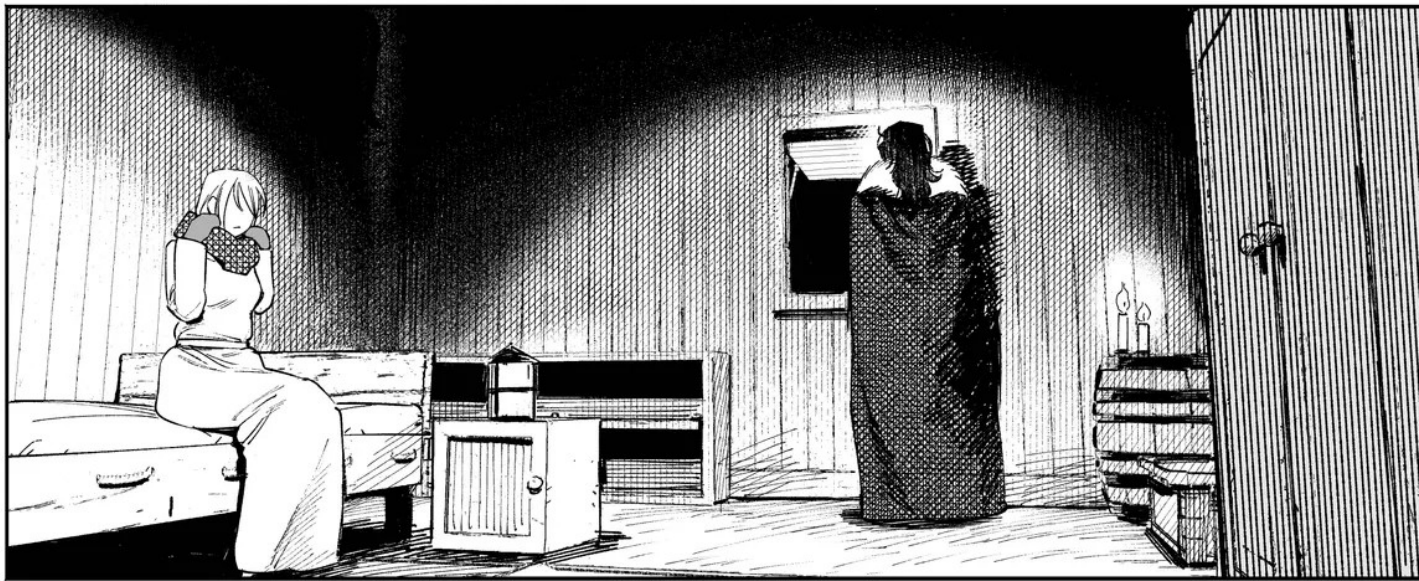
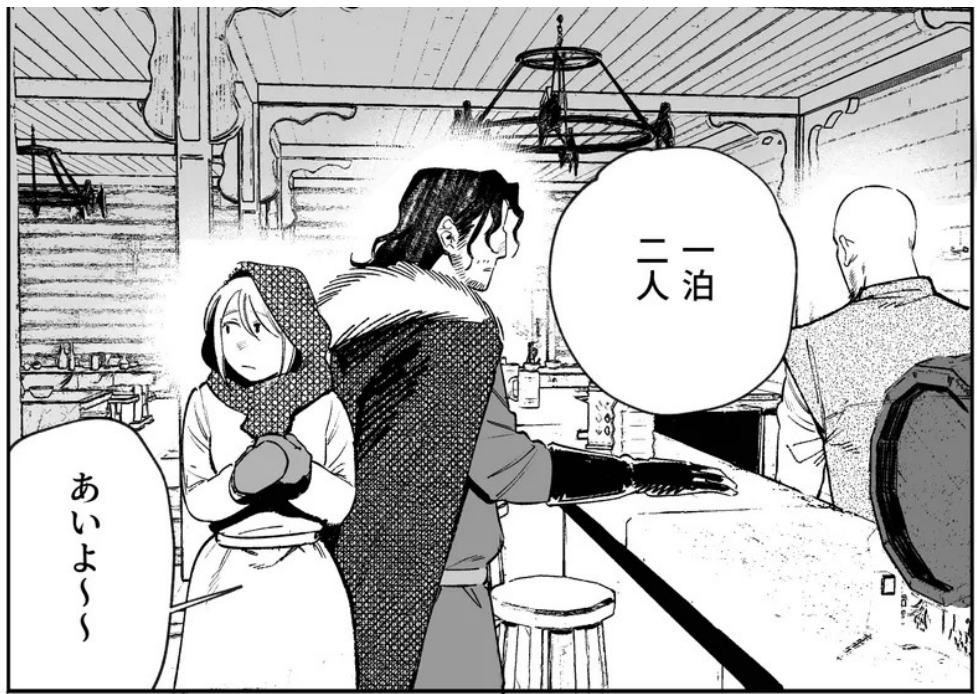
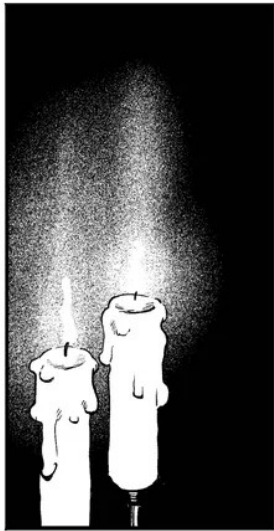
翌日の
夕方には

私の大嫌いな都は
もう目の前でした











懐かしいな



都に
住まわれたこと
あるんですか？

……
……
昔な……

この辺りは
あまり来ること
なかったが……



初めて自分の話をなされたので…

いえ

あの

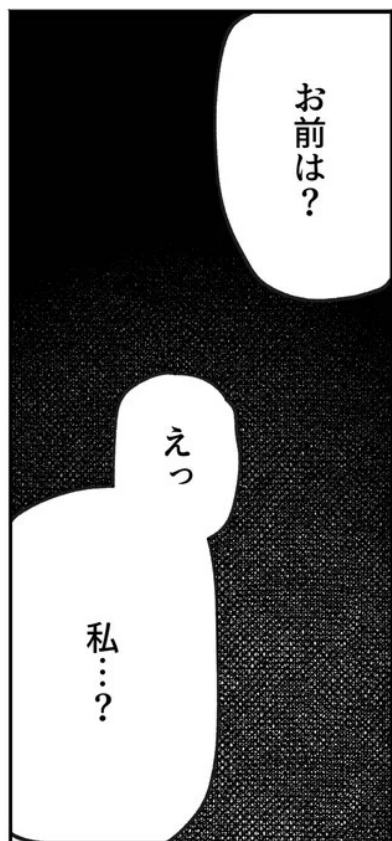


どうした



ど…
どの辺りで暮らして
いたんですか？

……



お前は？

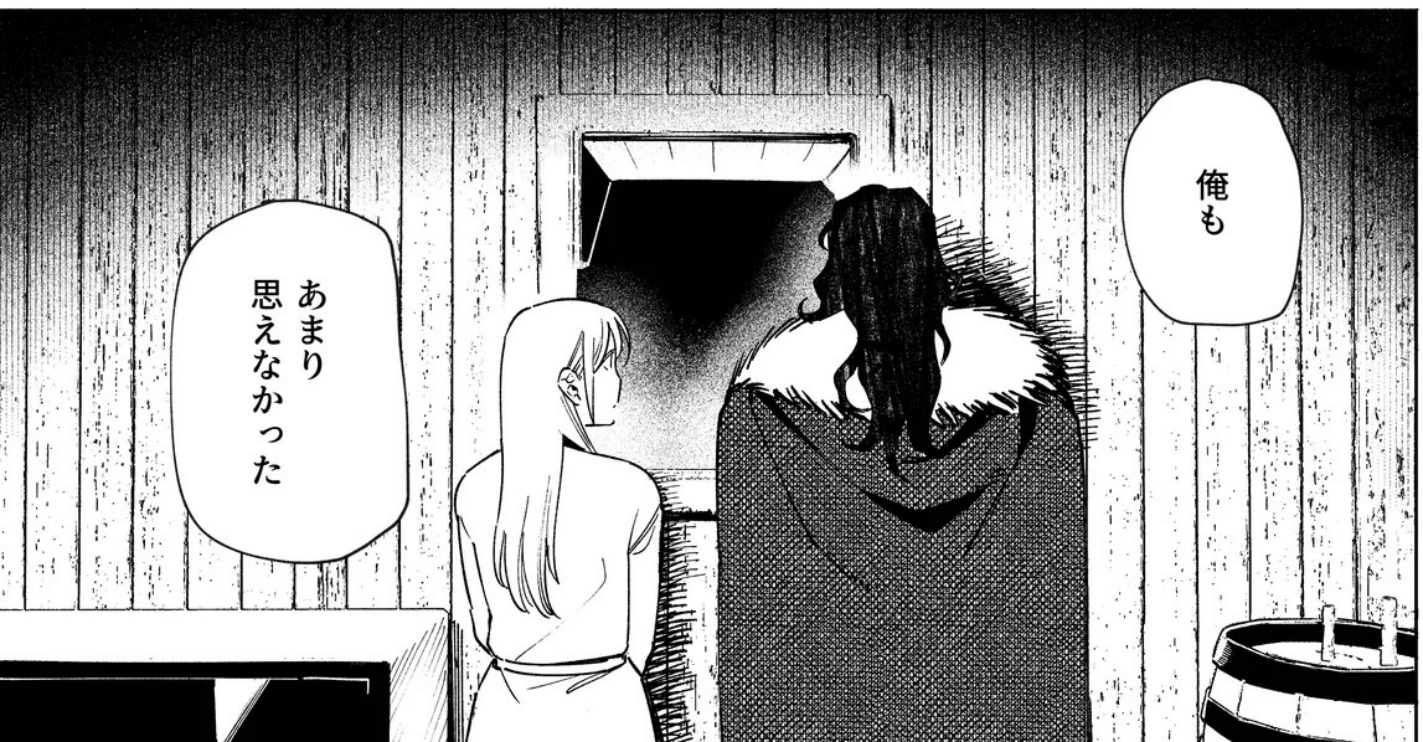
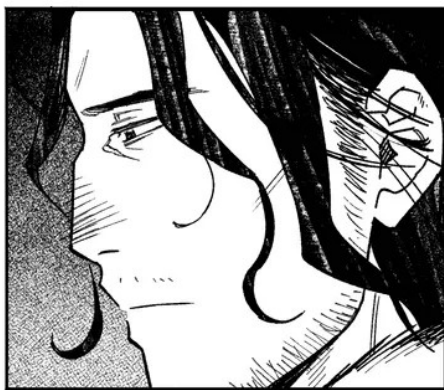
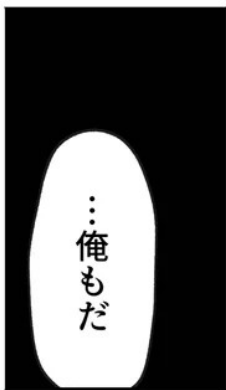
えっ

私…？



……

ここからじゃよく見えないな…





…あれから
してないので……

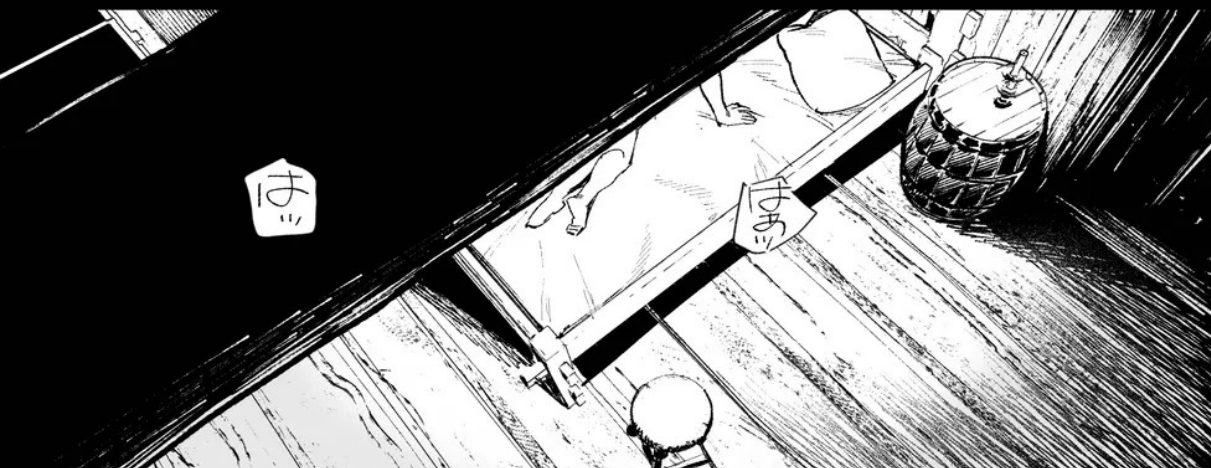


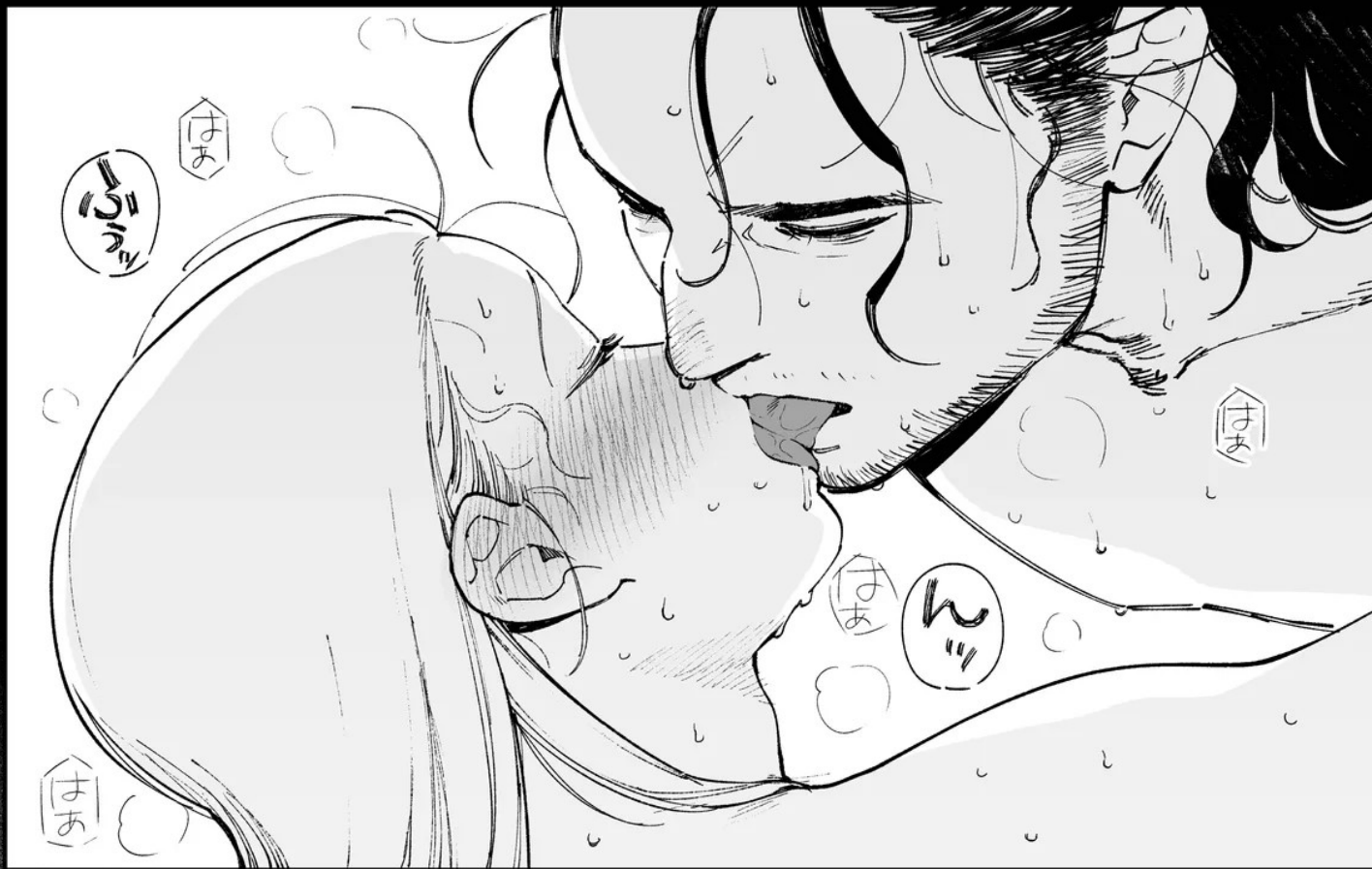
あの…

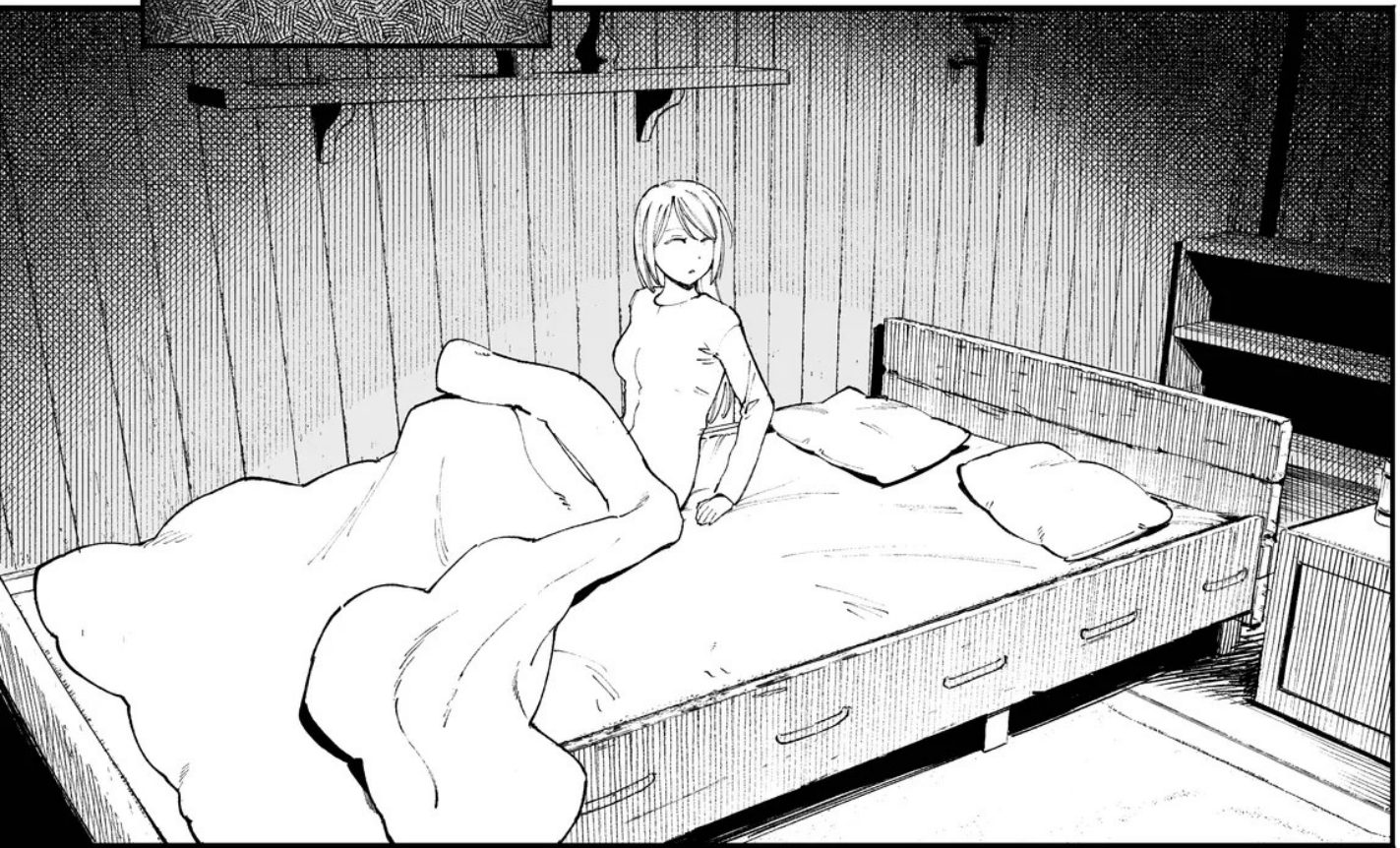
今日も
いいんですか？



はッ









お連れ様
ですか？

ん？



たしか
少し前に
外出されたね

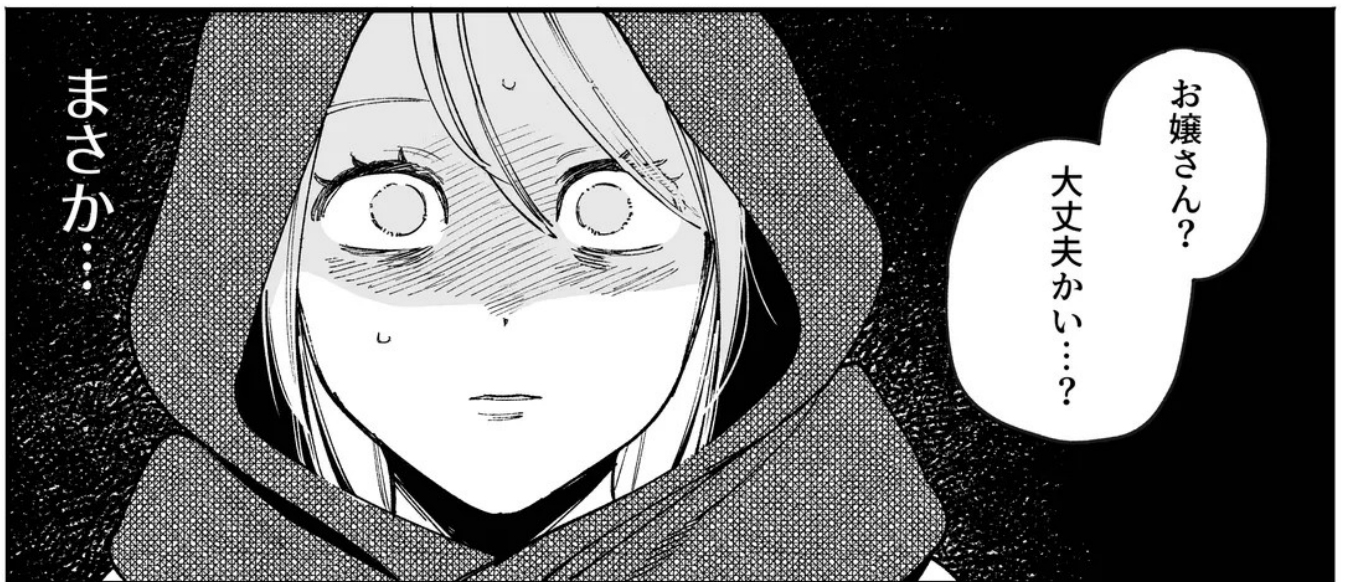
娼館の方に
向かってた
気がするけどねえ



あー…
あの長髪の方？



!?



まさか…

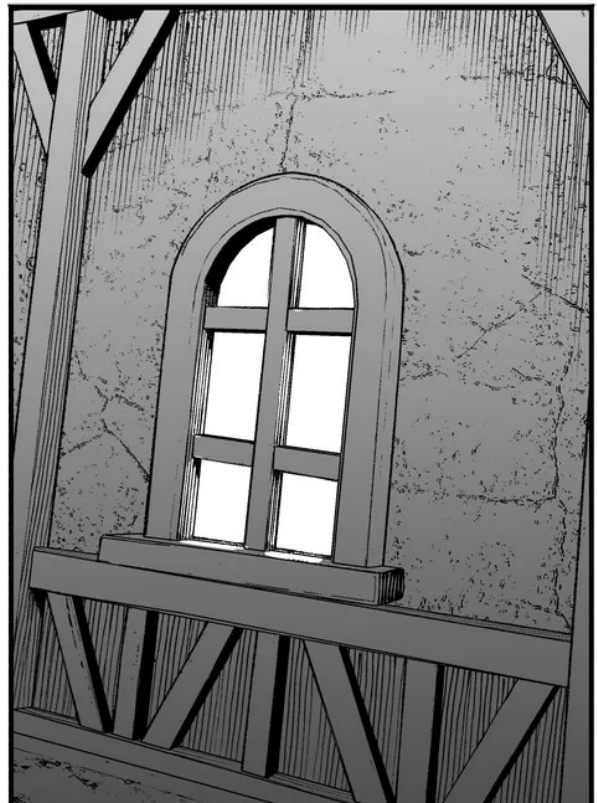
お嬢さん？
大丈夫かい…？

…そんなはず
ない…!



本当に
入ったのかしら…

…やっぱり





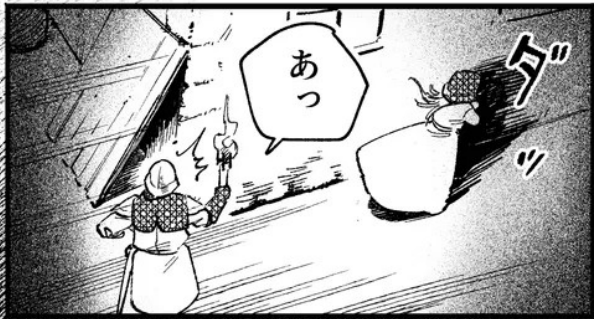
私を娼館に
引き渡す
つもりなんだ



初めから
そんな気がしてた

そうよね
だって私のせいで

人殺しさせて
しまったんだもの



あっ



おい
こんな時間に
一人で何してる



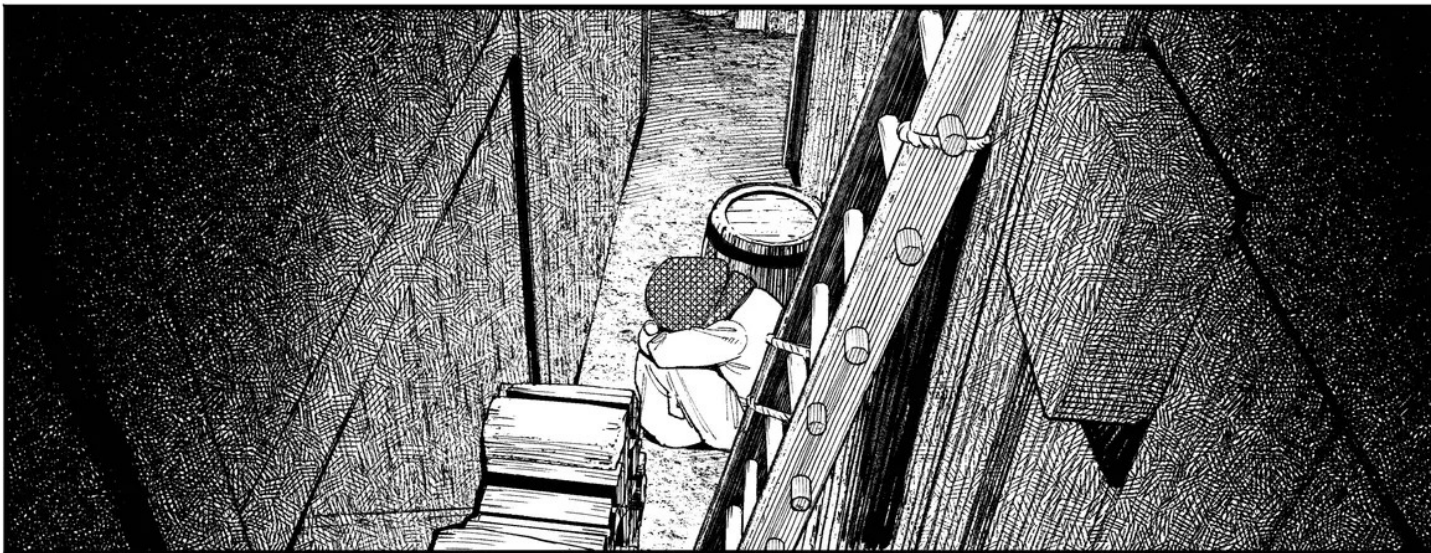
私はどこ行っても
迷惑かけてばかり

こんなことにな
るなら

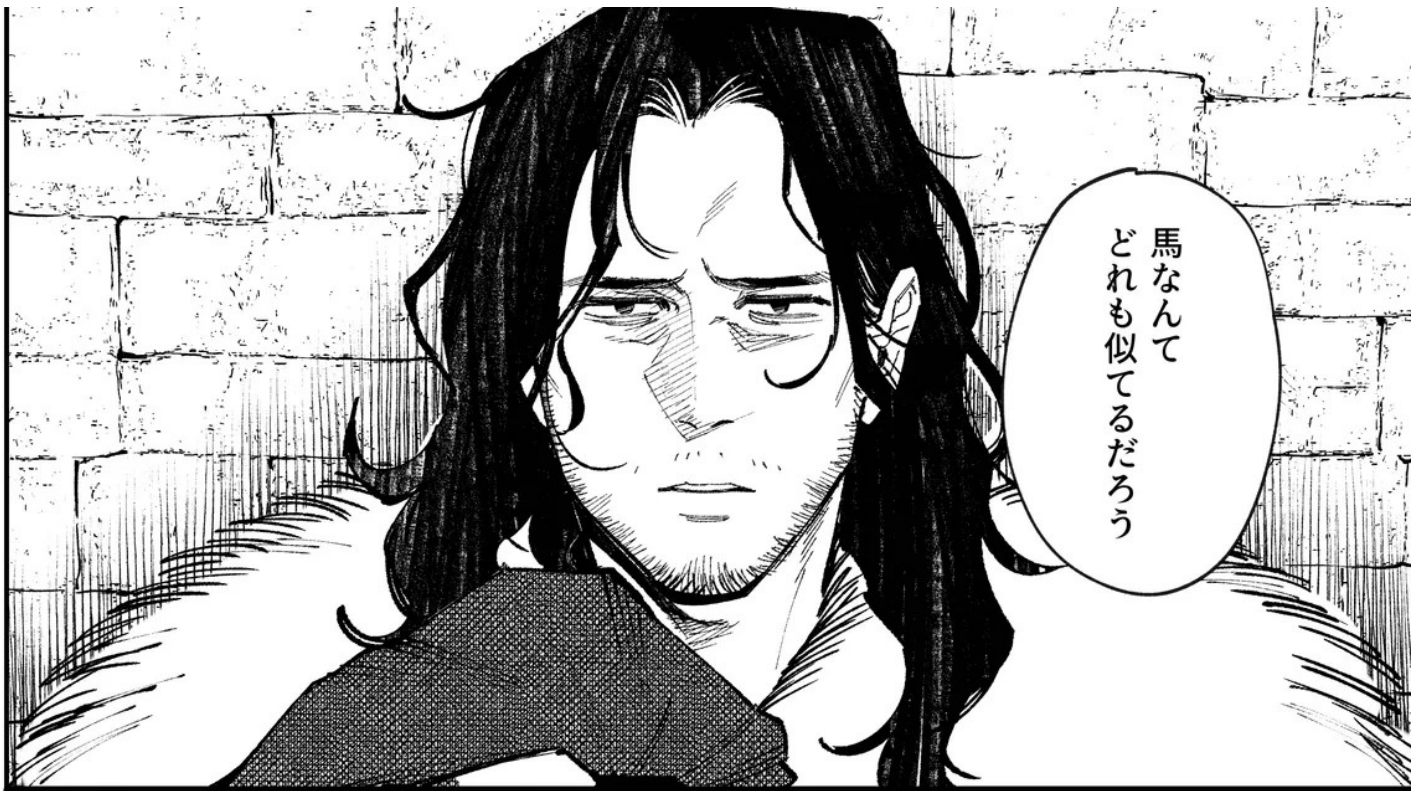
あそこ
娼館から
逃げたりしなきゃ
よかつた……!!

お前は綺麗だ









馬なんて
どれも似てるだろう



てめえ…

チッ



あの印と毛並み
俺は忘れない！

おい！！



お前は隠してる
つもりだろうが
俺は見たぞ！

宿屋の前で
荷解きしてる
時に焼印を！



こんな不運が
本当に
あるのでしょうか

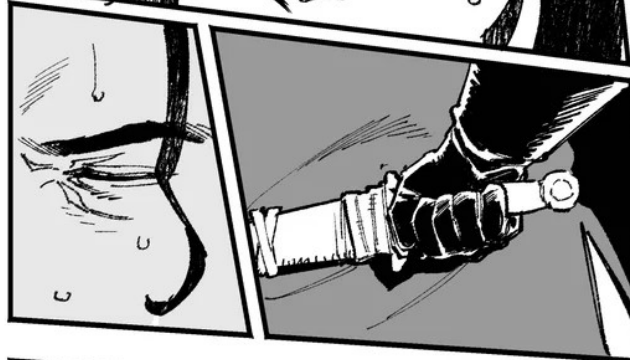
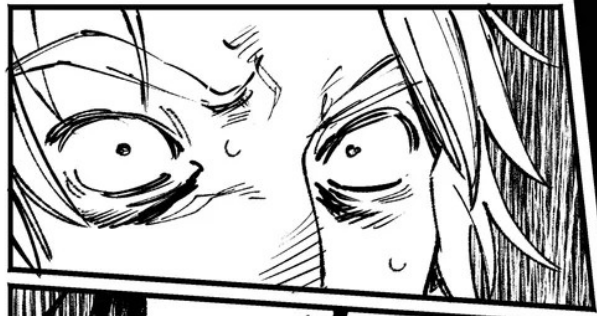
彼らの言う馬が
私達があゝの兵士から
奪った馬なのか
確かめようが
ありませんでした

でも彼も私も
思ったことでしょう

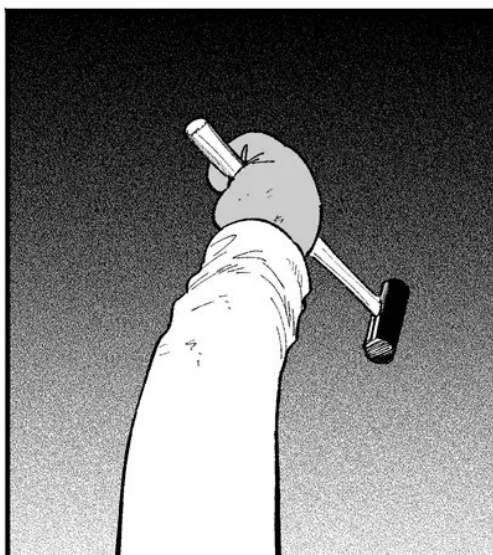
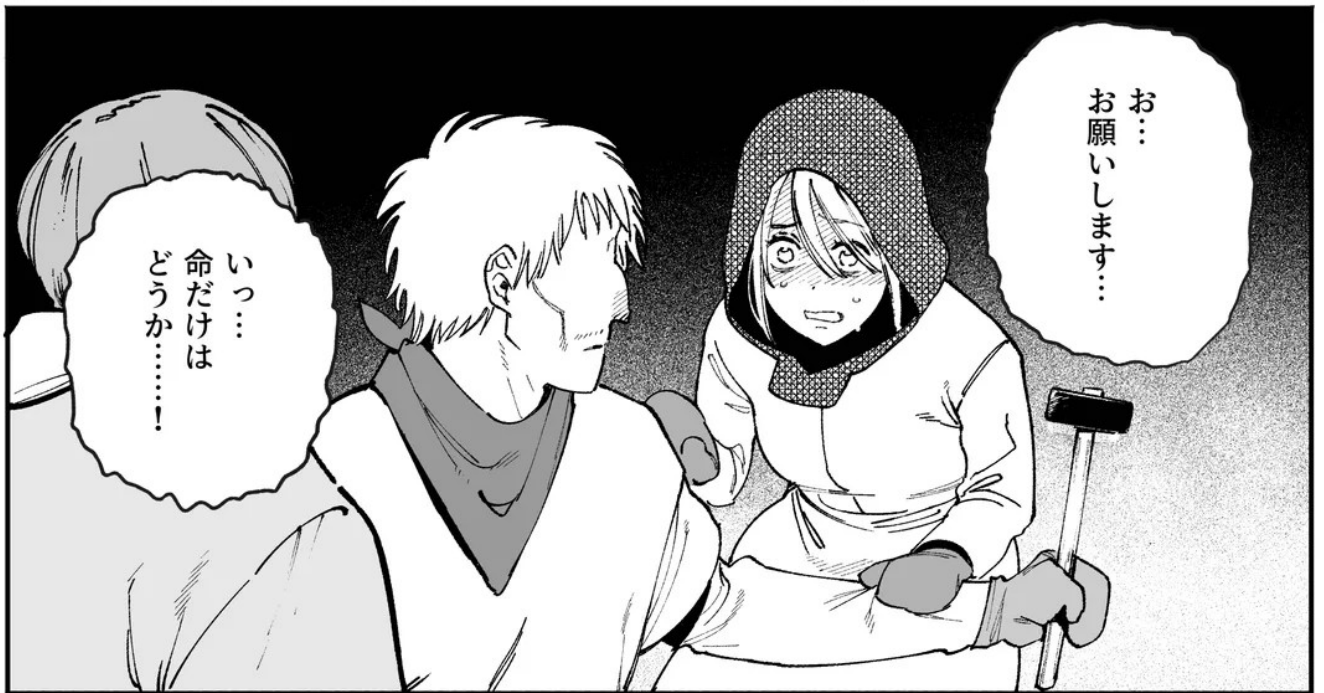


ツケが回って
きたのだと











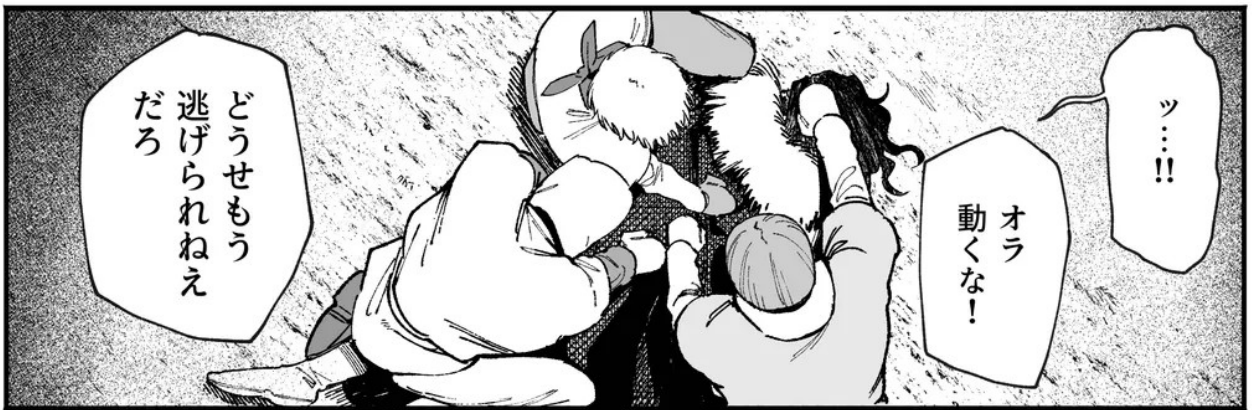


歌って踊って
みるか？

脱いで俺を
楽しませるか？



女に
何が
できる？



どうせもう
逃げられねえ
だろ

ツ…!!
オラ
動くな！



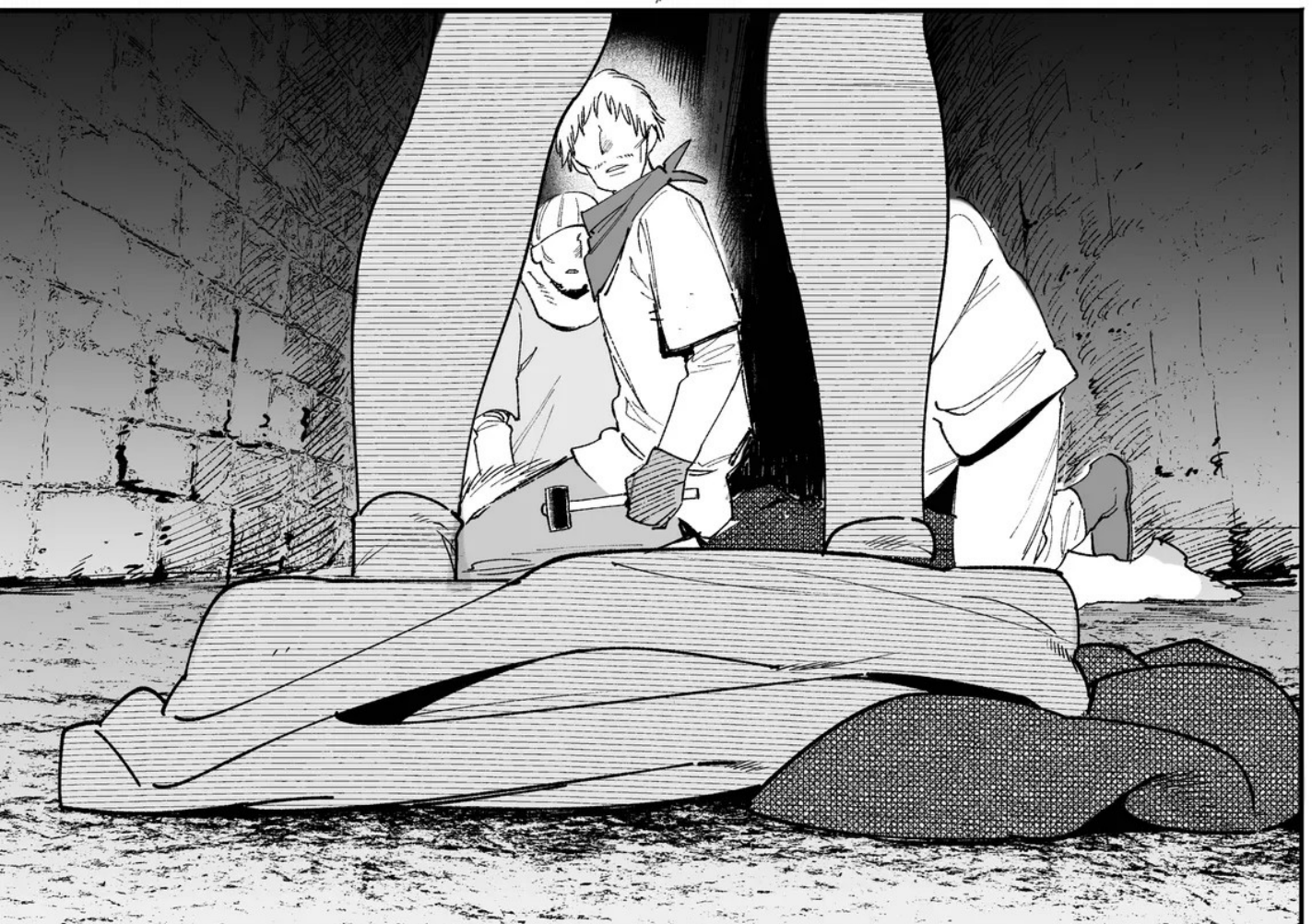
お前ら
何見て…

…おい

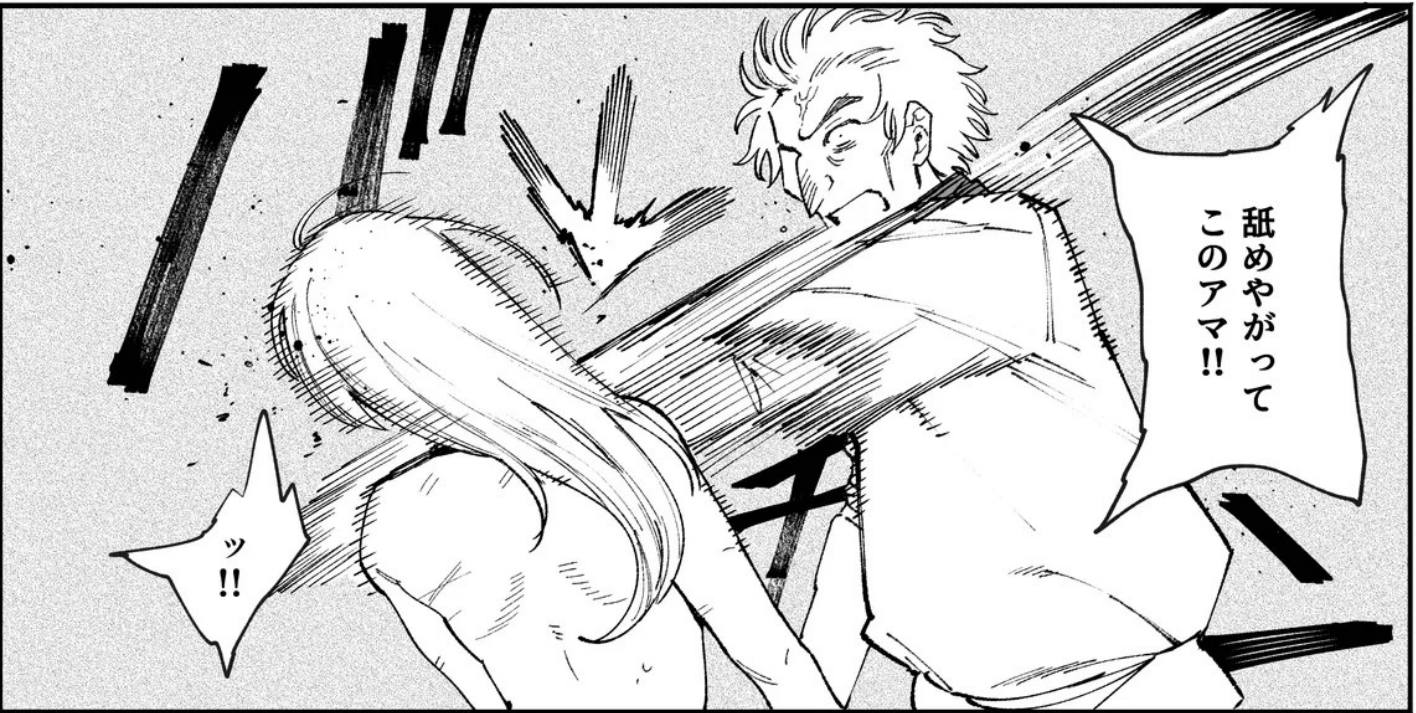


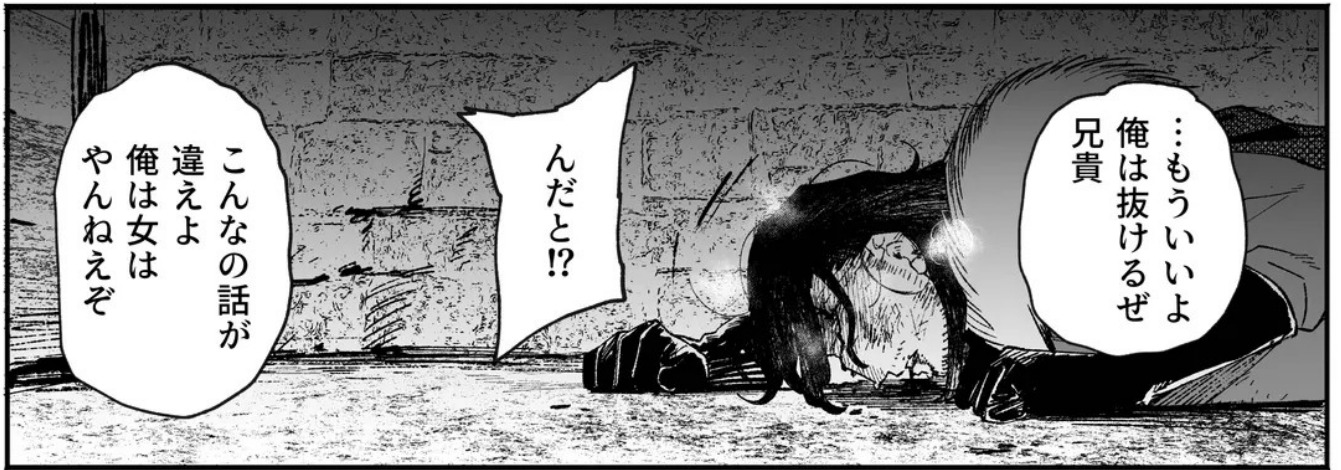
よし
次は反対側
やるぞ











こんなの話が
違えよ
俺は女は
やんねえぞ

んだと!?

…もういいよ
俺は抜けるぜ
兄貴



おめえら
ここまでやって
おいて
今更なんだよ!!

アアっ!?

ッ…

そもそも…
あの馬の焼印
似たようなの
いくらでもあるだろ



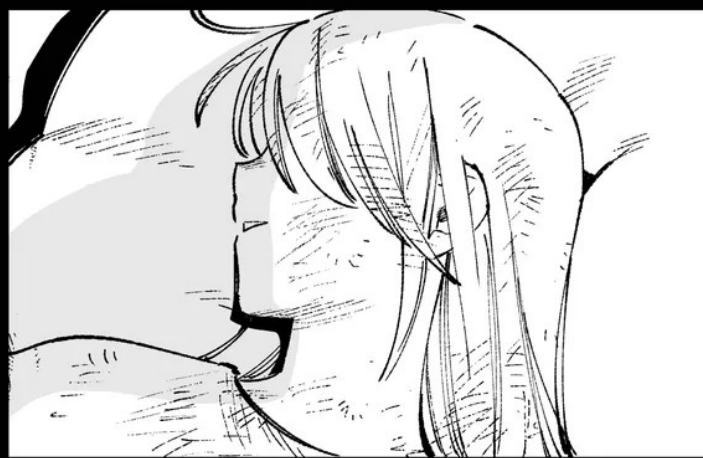
!!

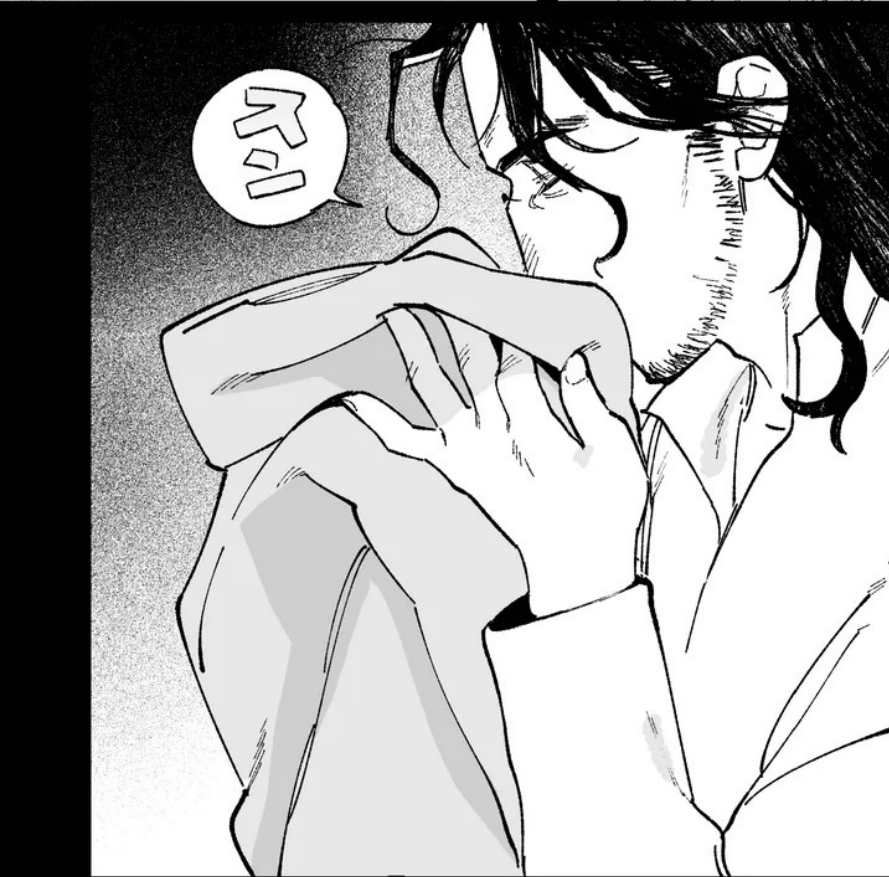
どうした

ベア

あの日は
見間違いかと
思った











彼女に...


やっぱり似てる...



ああッ
領主様…!!

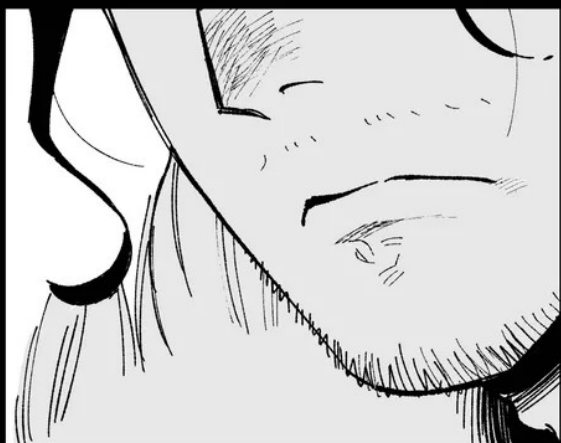


あれは…
馬車の一部…



ふふ…
大きいのに意外と
繊細なのね…









そ…

「そのあと
クマは…」

えっと…
「ふかい…もりの…おくで…」



…
ここは何と
読むんでしょうか

ああ…
そこは、



「ひっそり」よ

「ひっそりと
暮りしました」
つて読むの



しかし
こう見ると…

あいつと
あまり似てない
ような…

そもそも……

……いや

いや、高かったか？

あいつはもっと
声が低かったような

あいつどんな顔だった？

ここも読み方
分からなくて……

ああ……
……そこは

あの……
すみません……

ロマン

どんな声だった……？

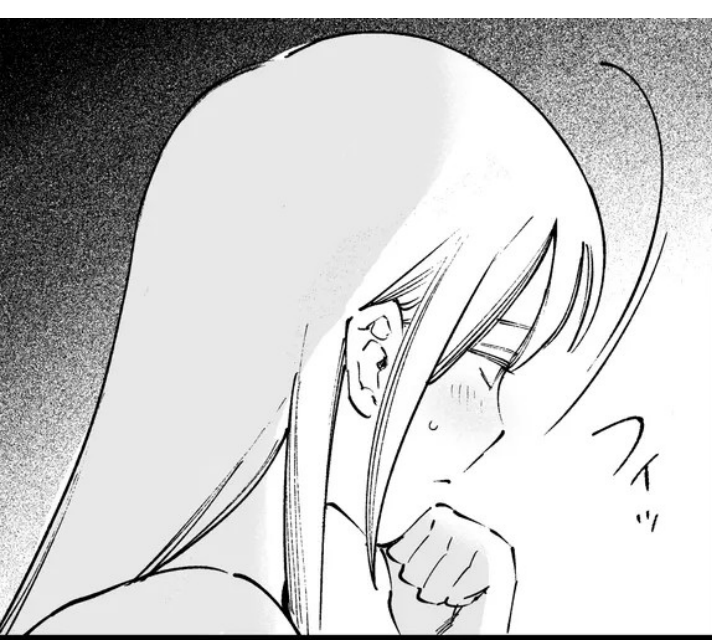




ふふっ
かわいい…



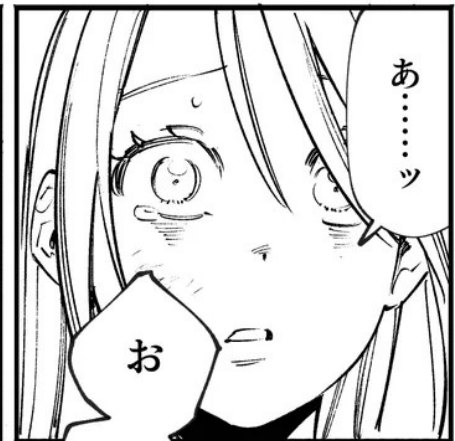
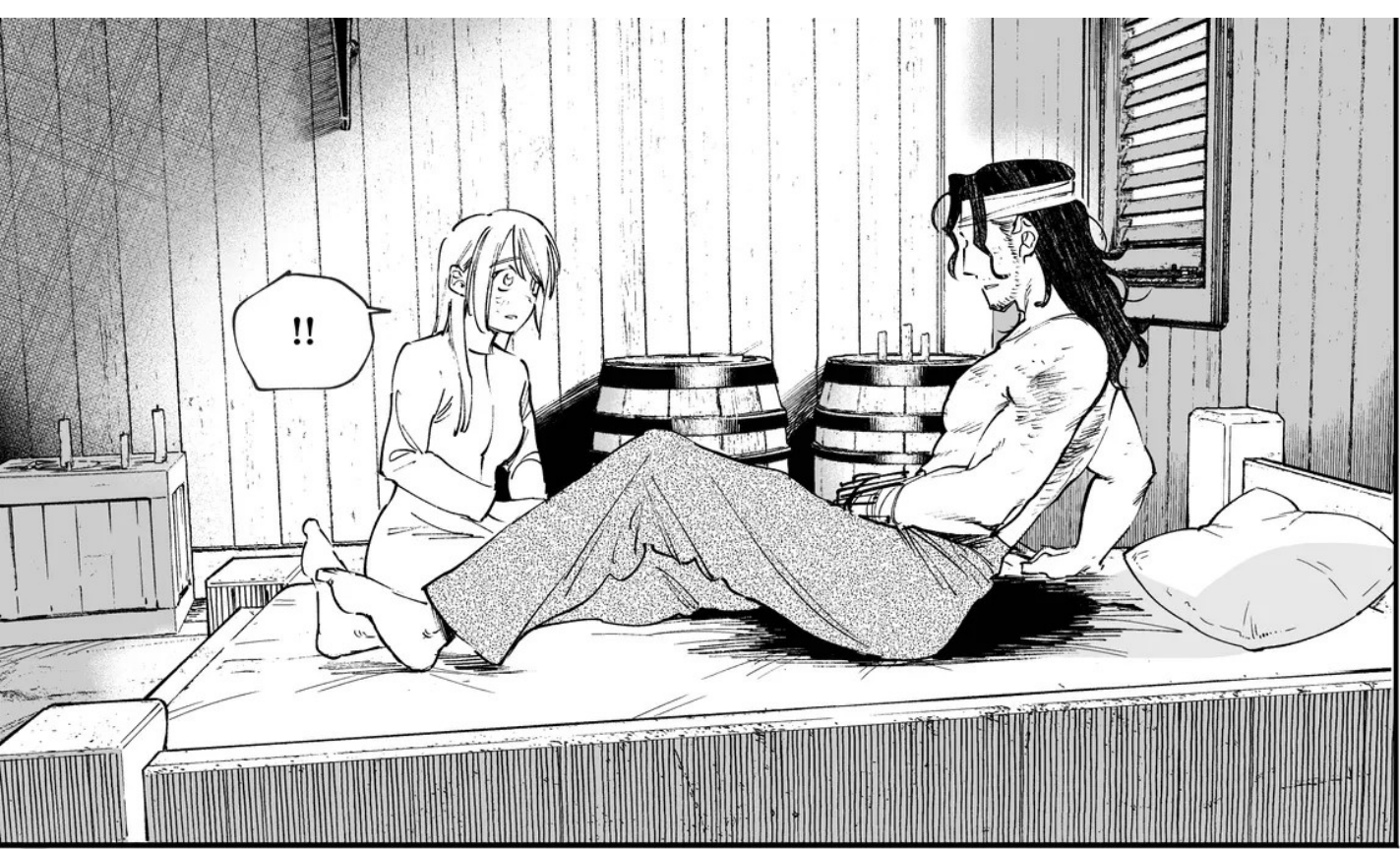
—っ

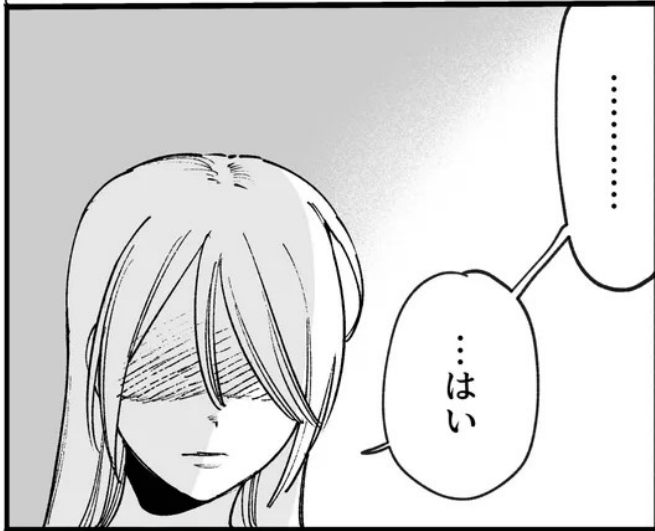
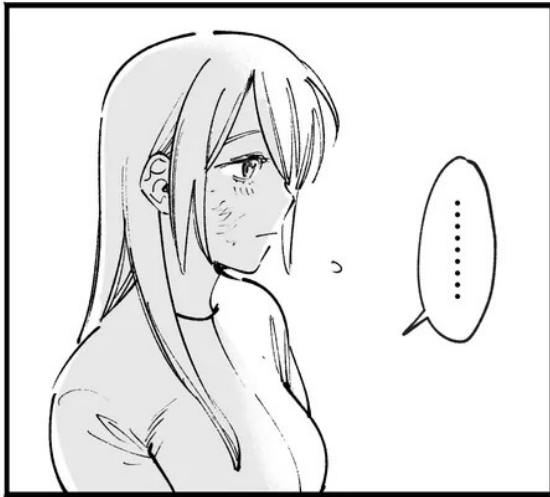


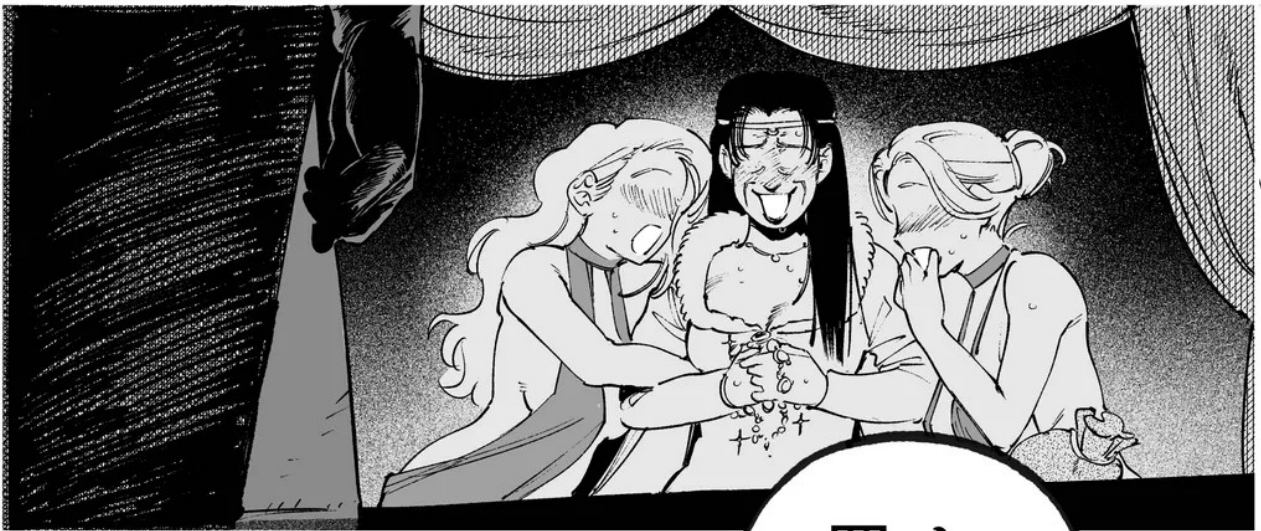
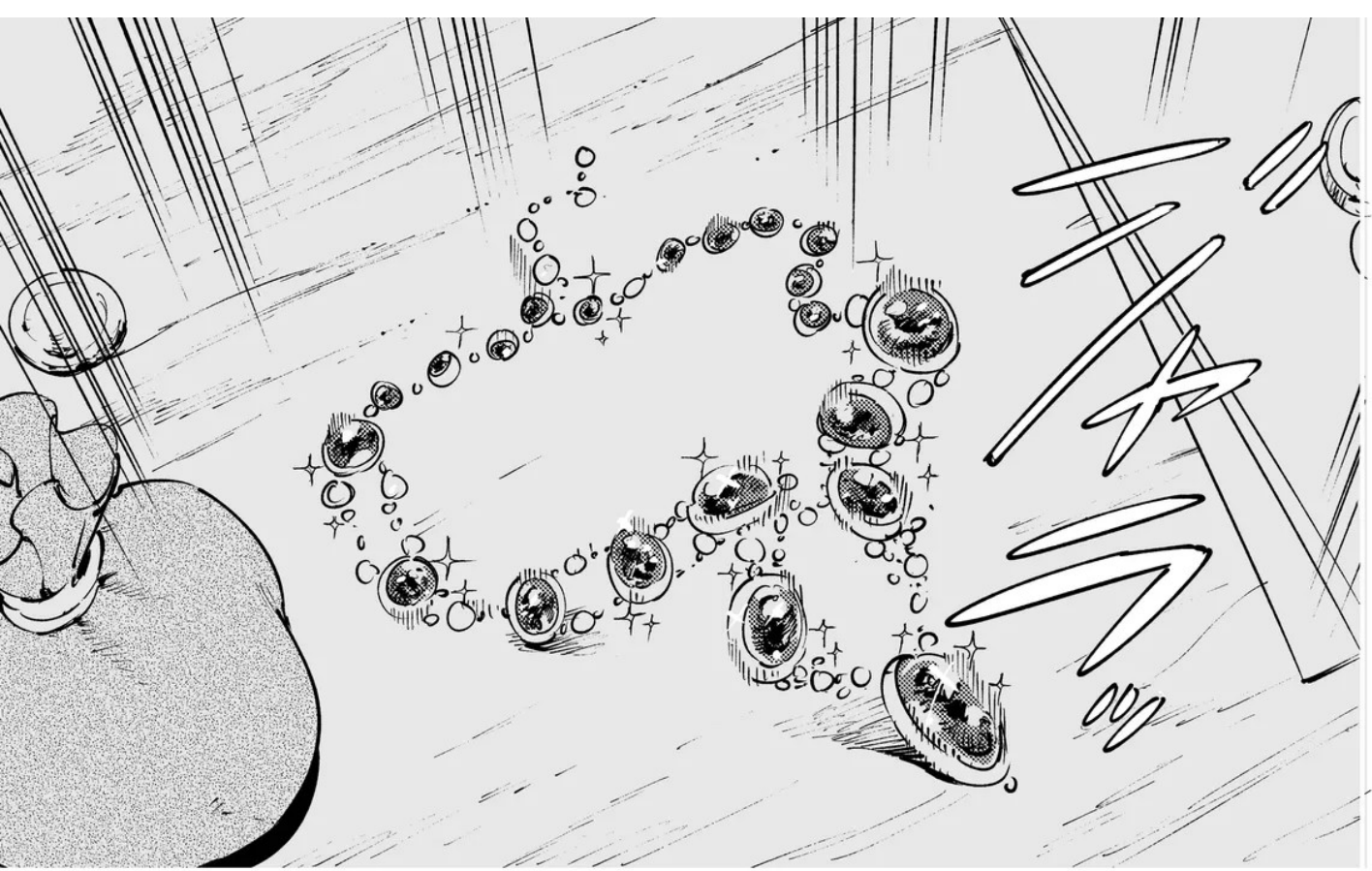
それから
あいつの顔は

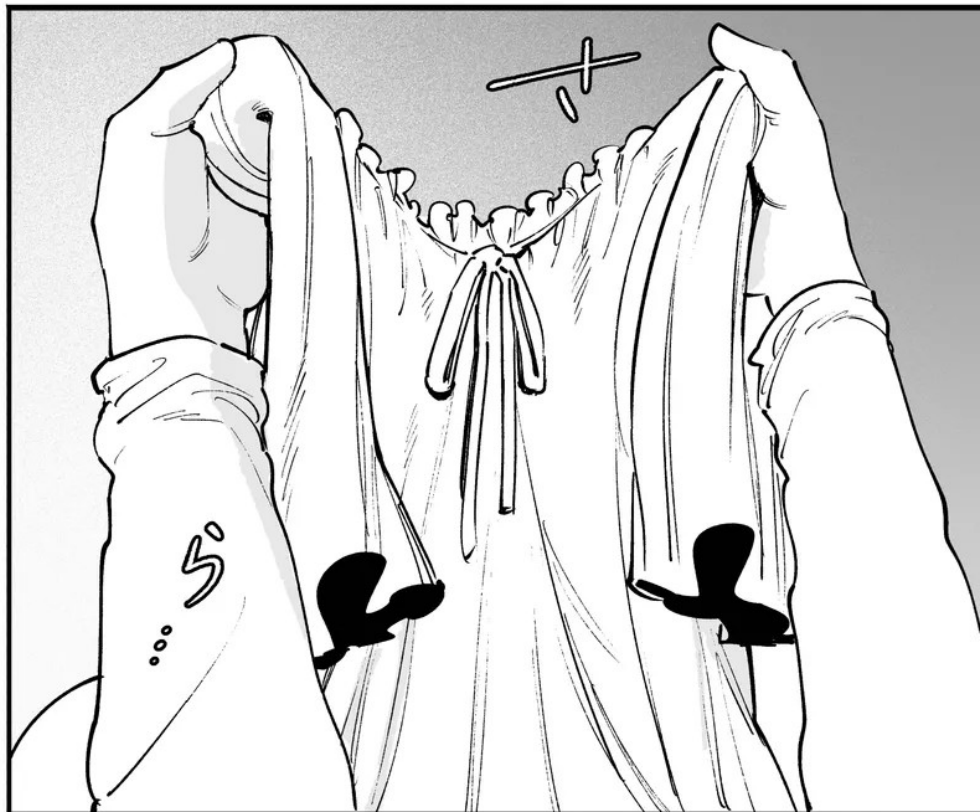
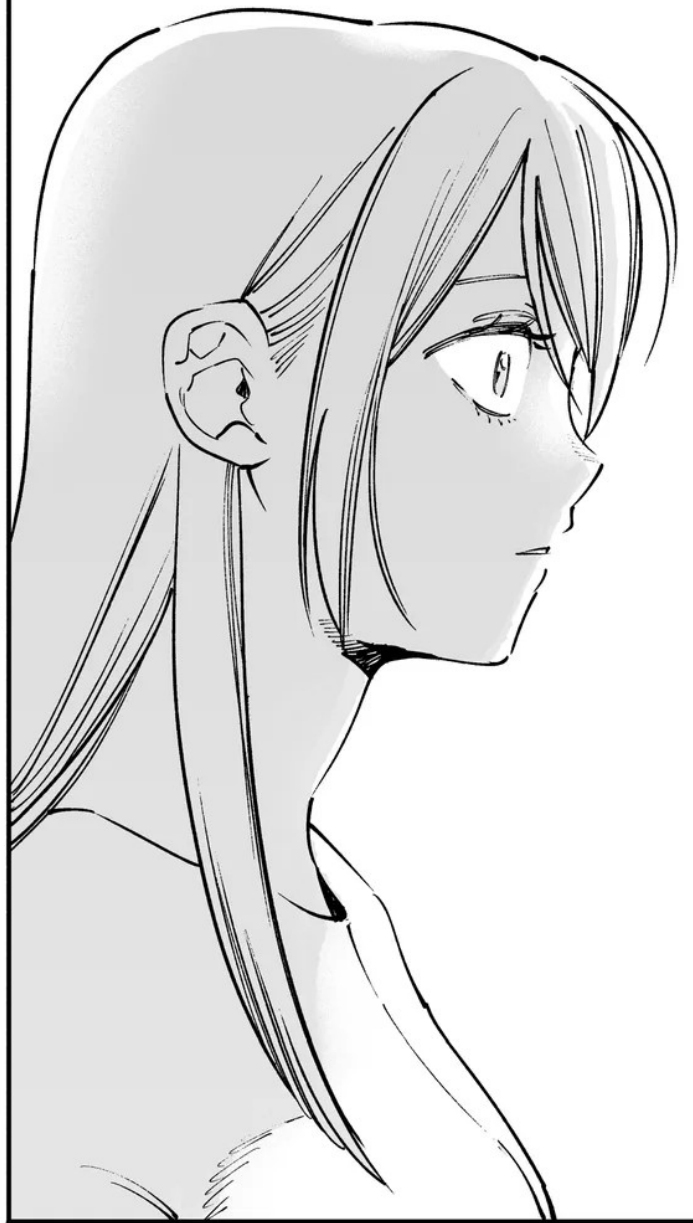
はつきり
思い出せなくなっていた

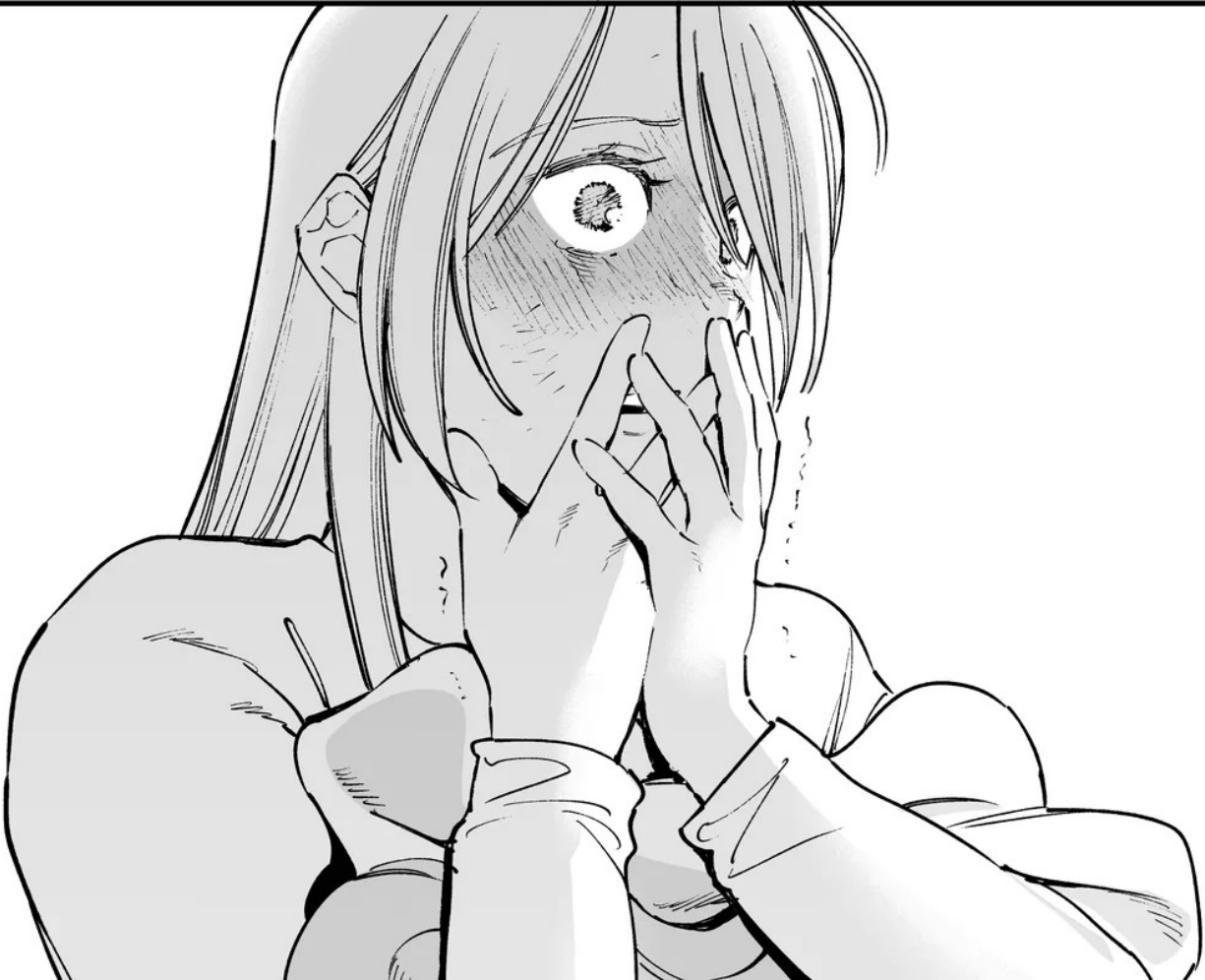
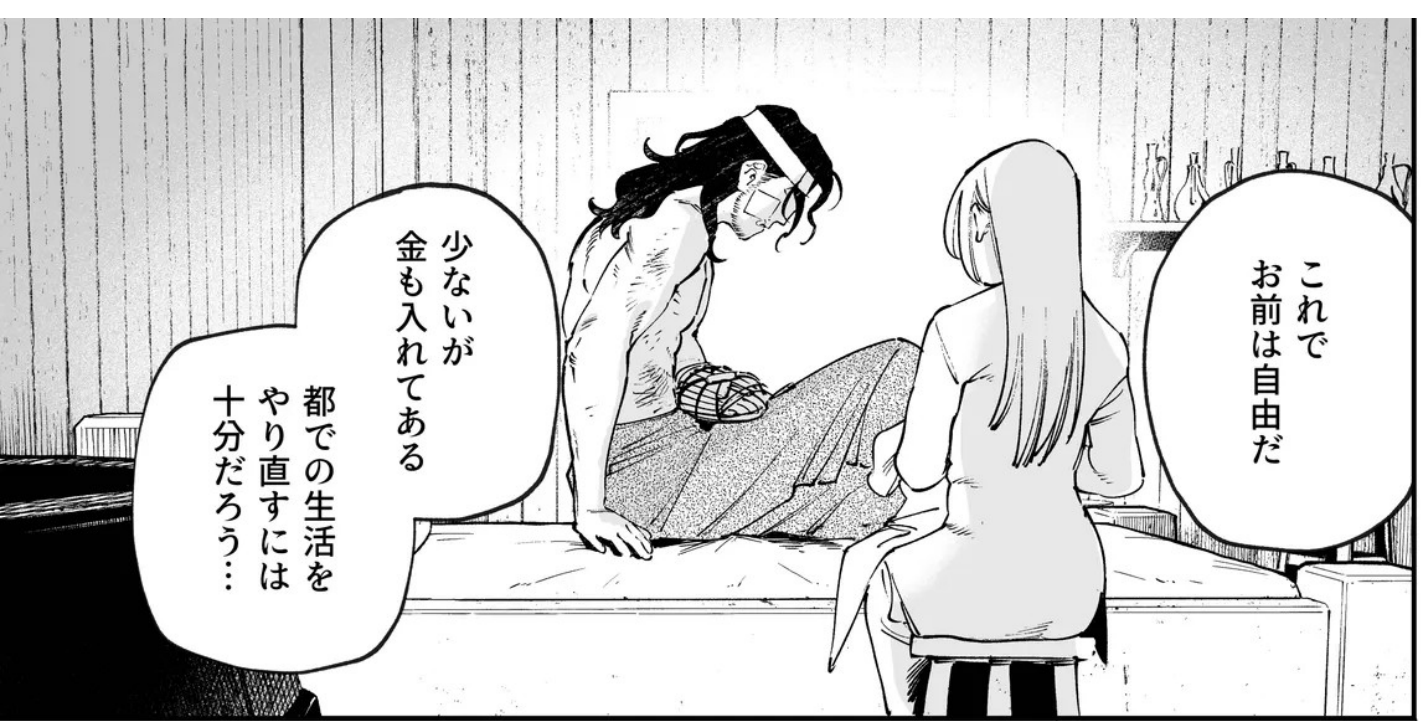




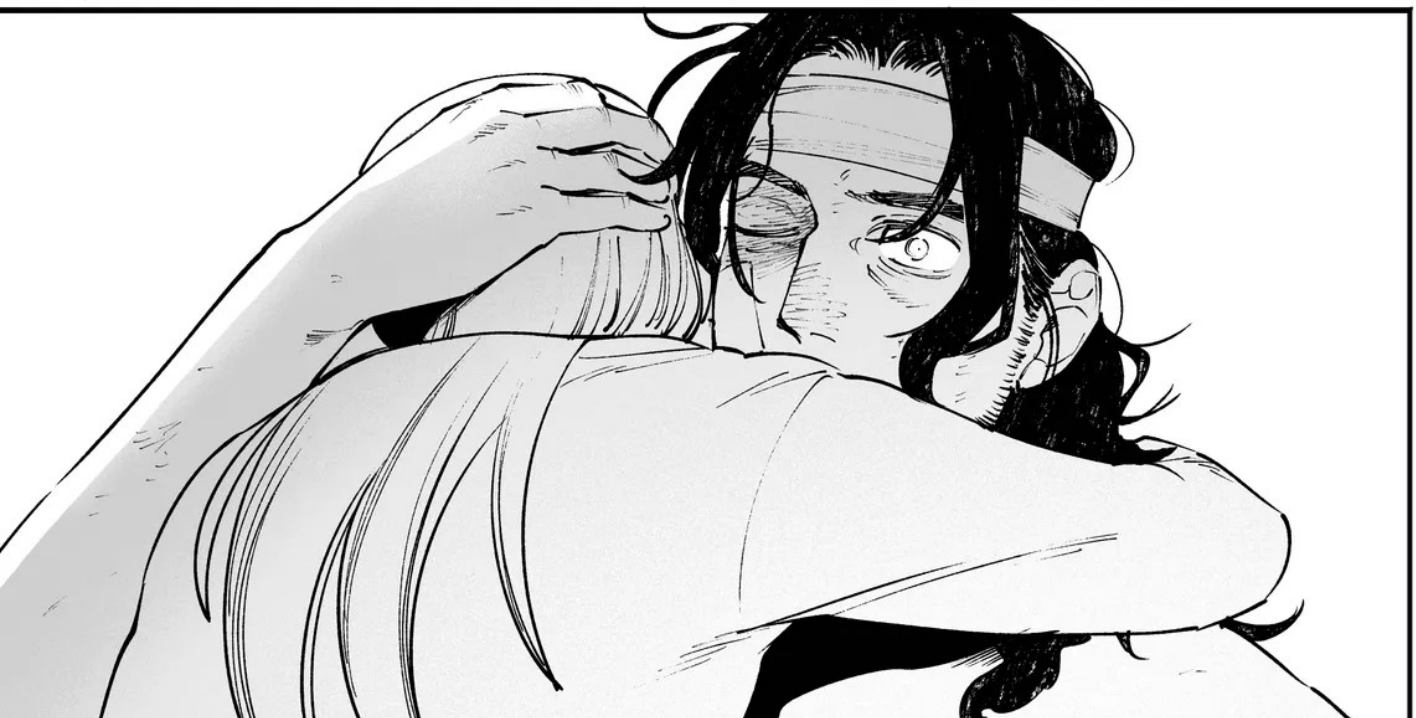
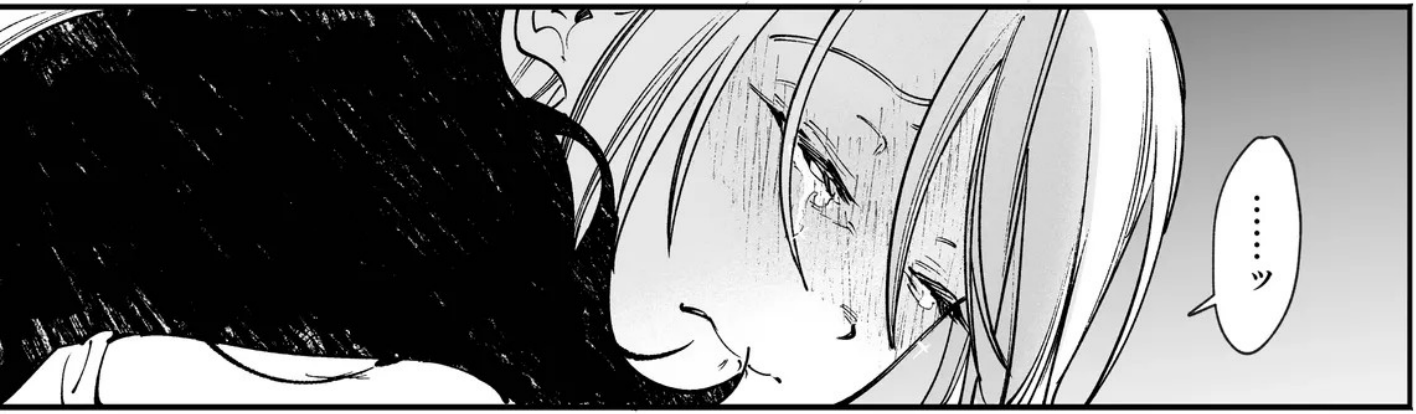


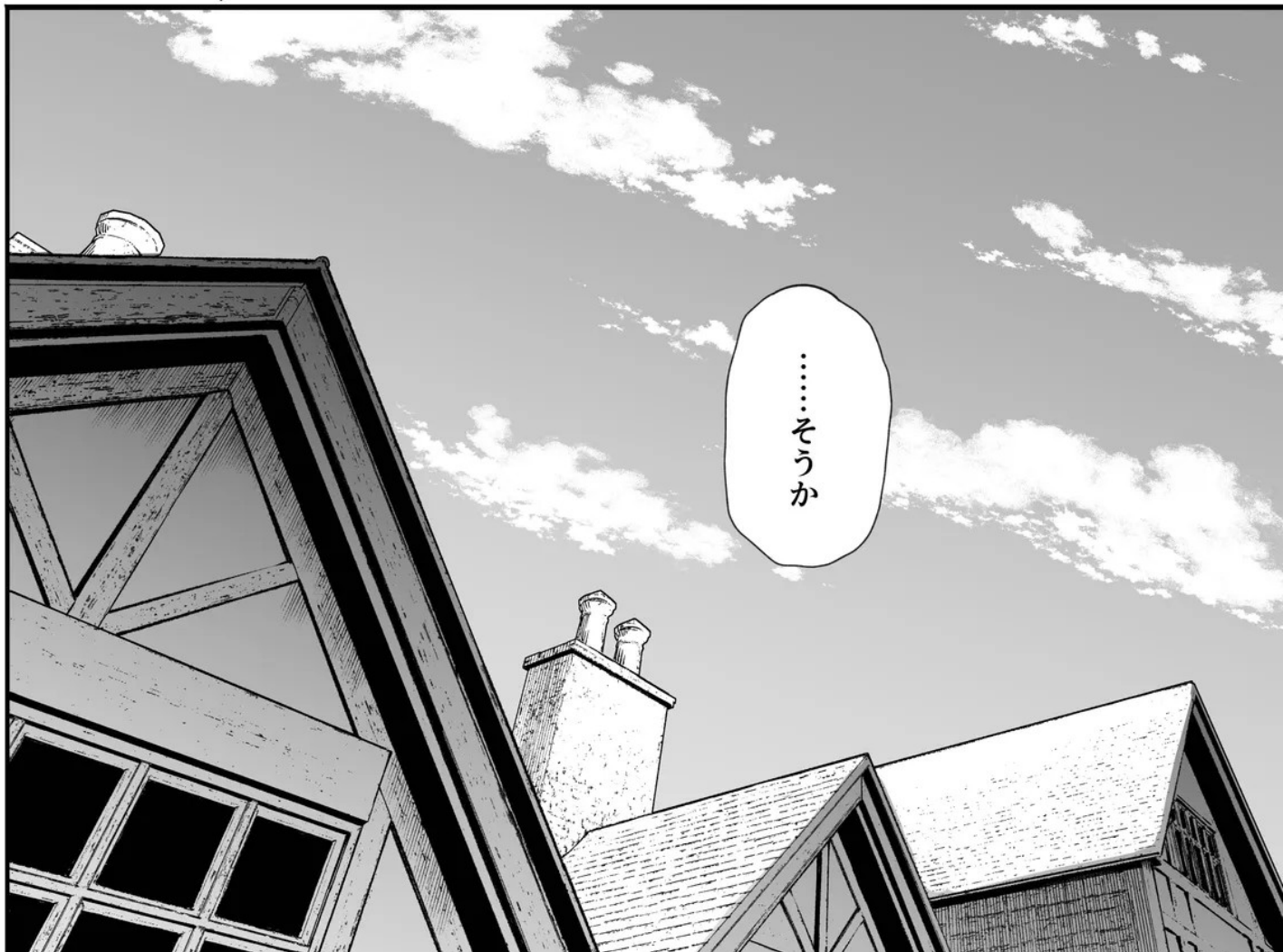
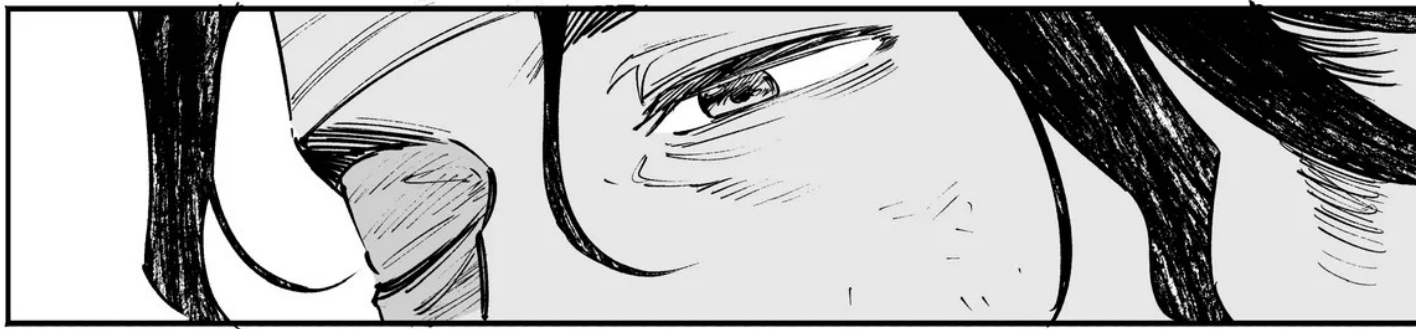
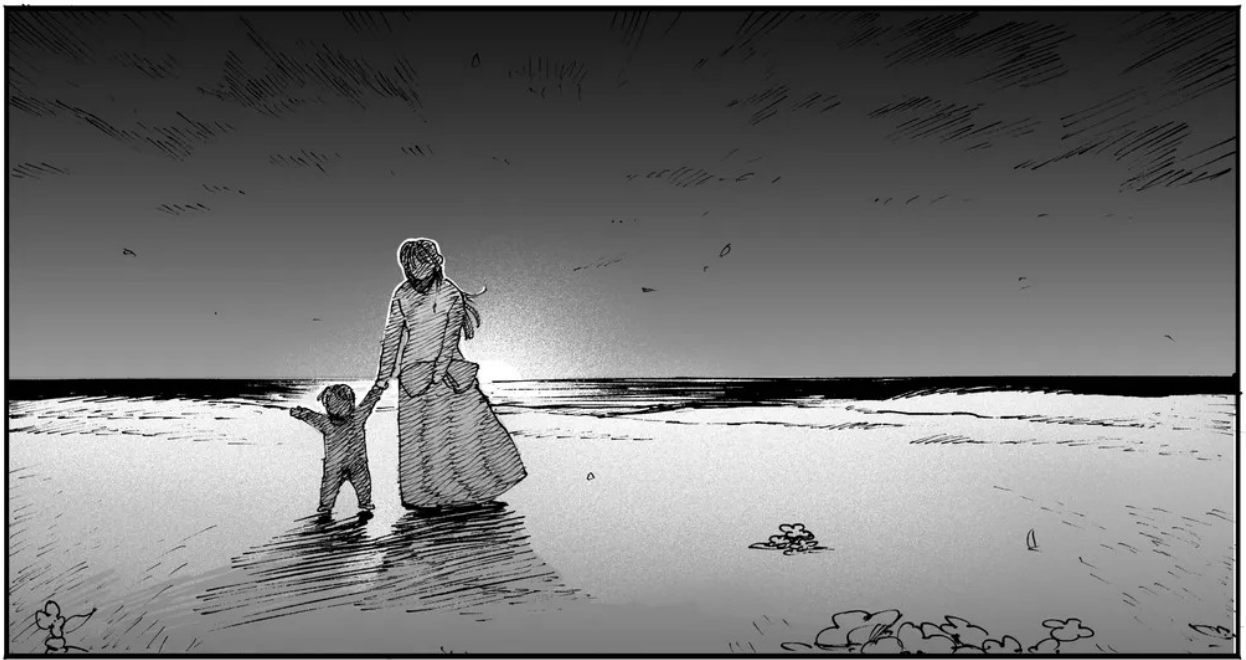


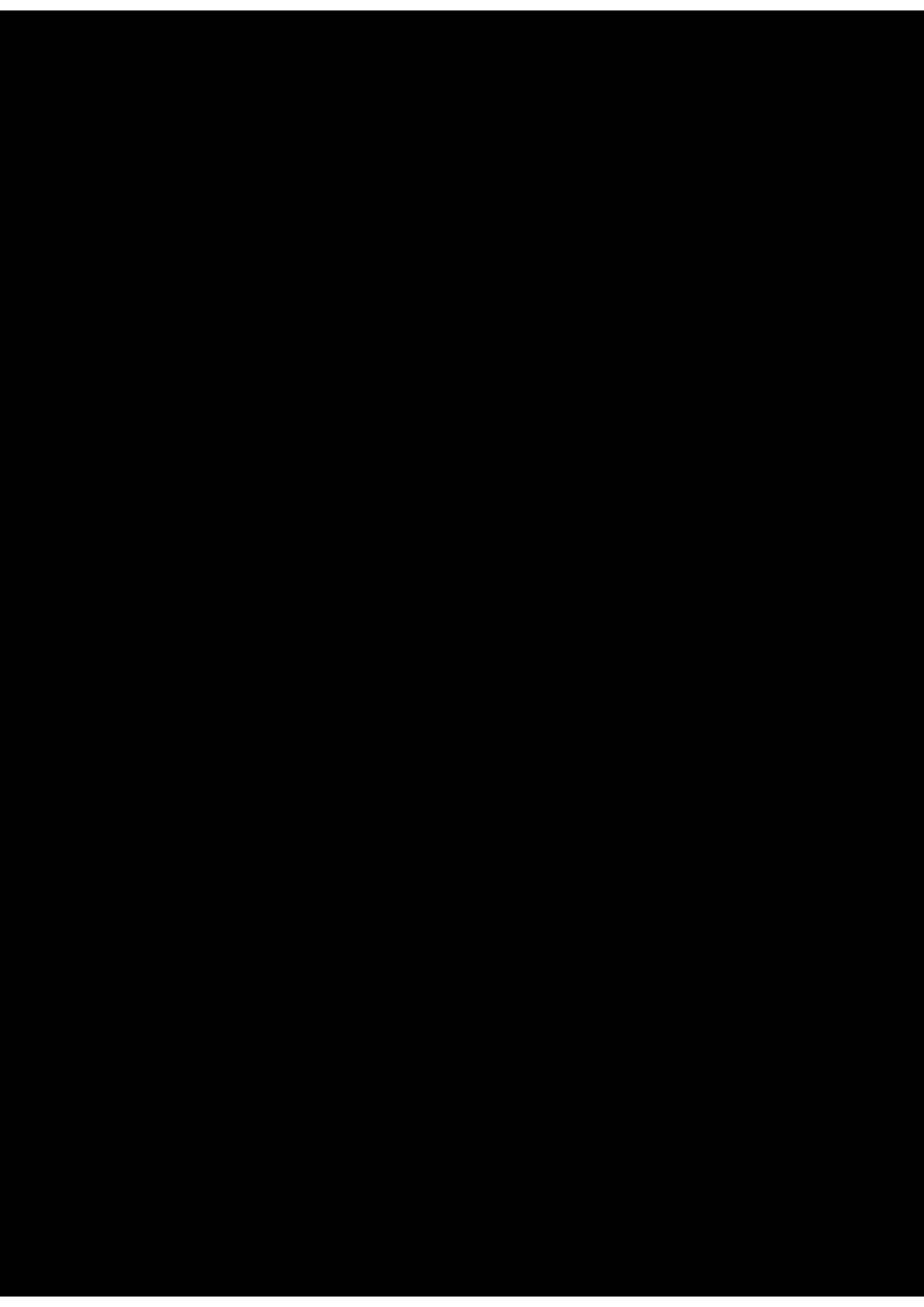








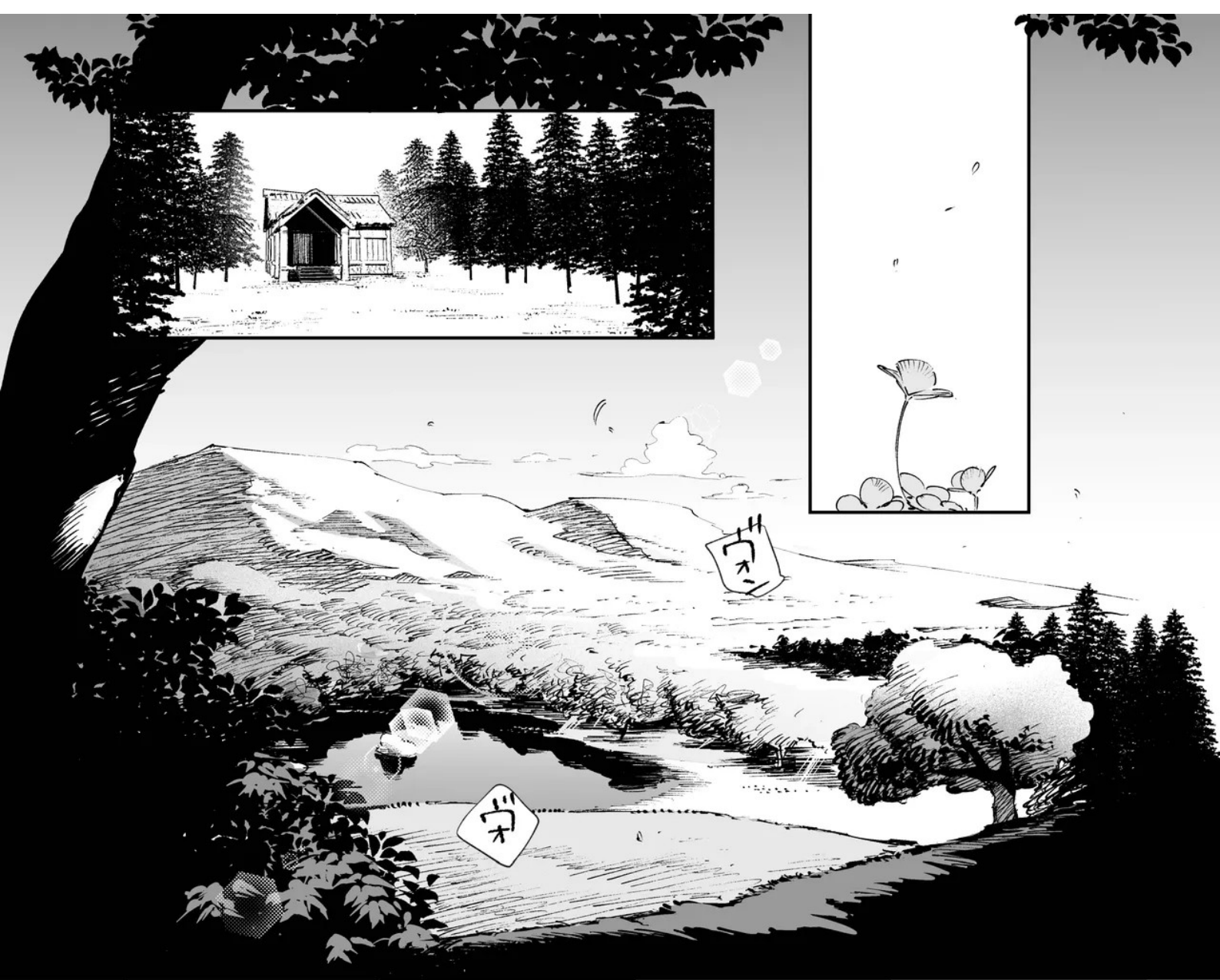




メイド・イン・春

元騎士の狩人と

元娼婦の話

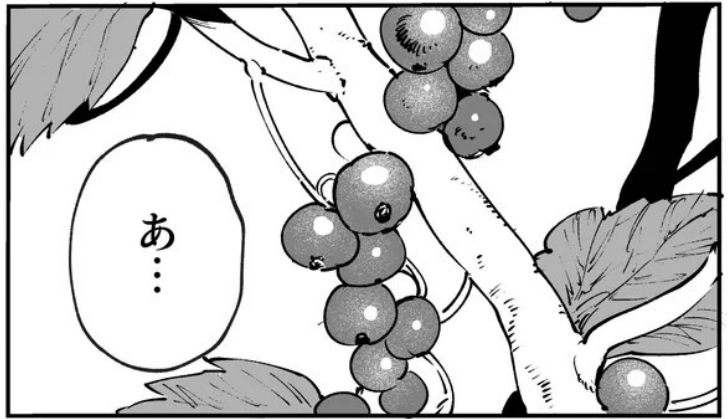
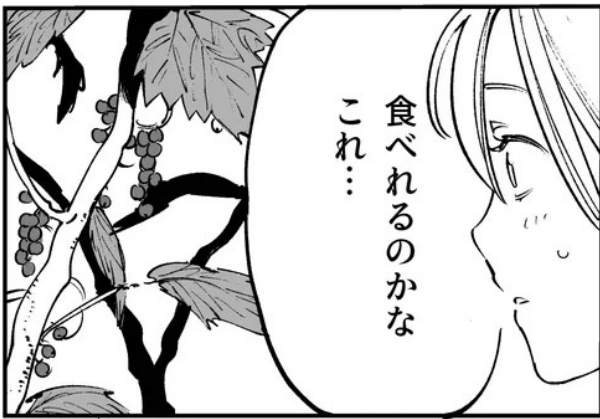


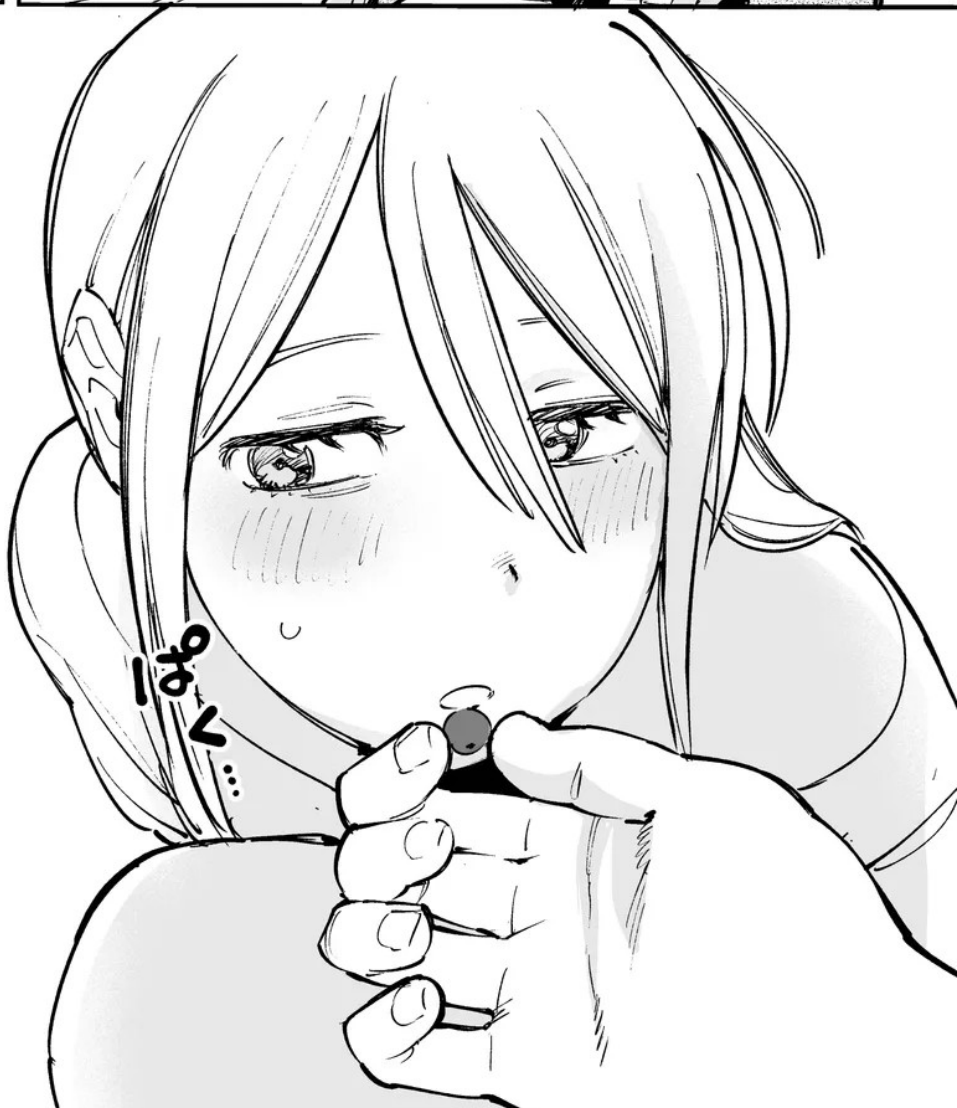
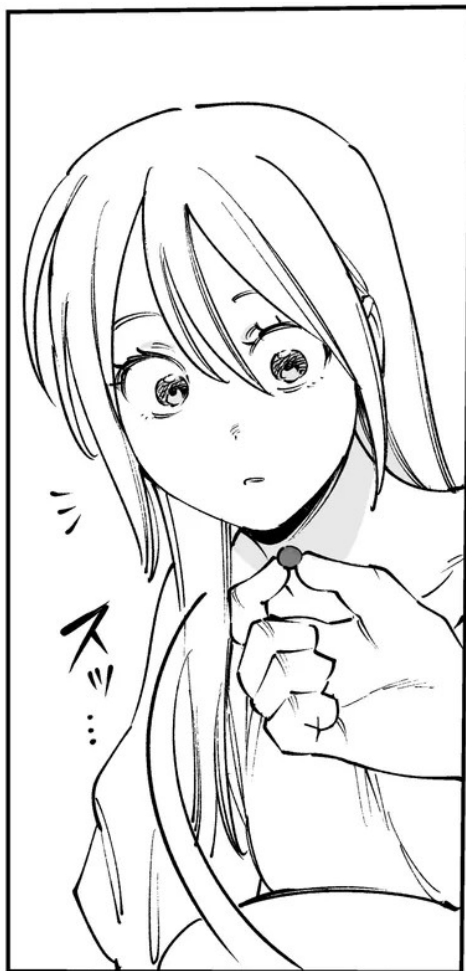
長い冬が
終わりました



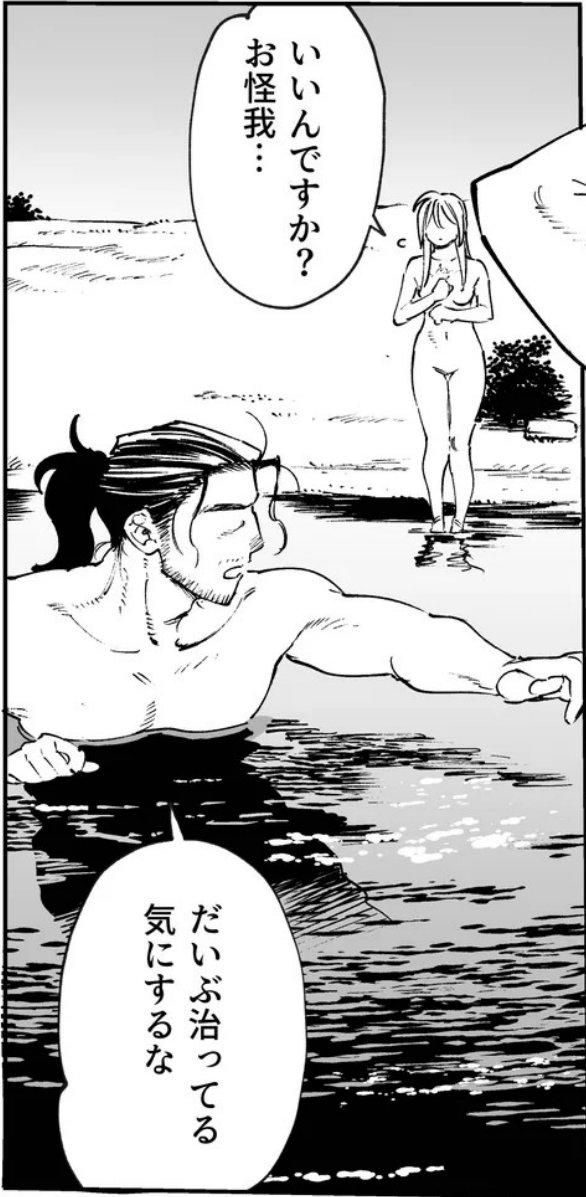
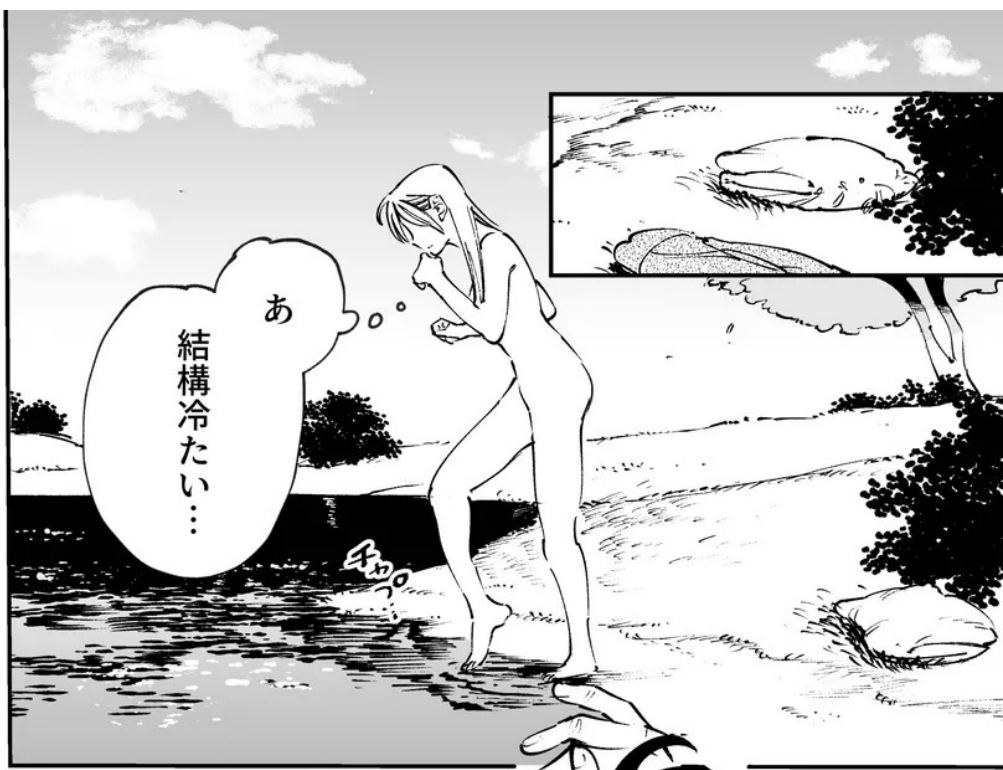


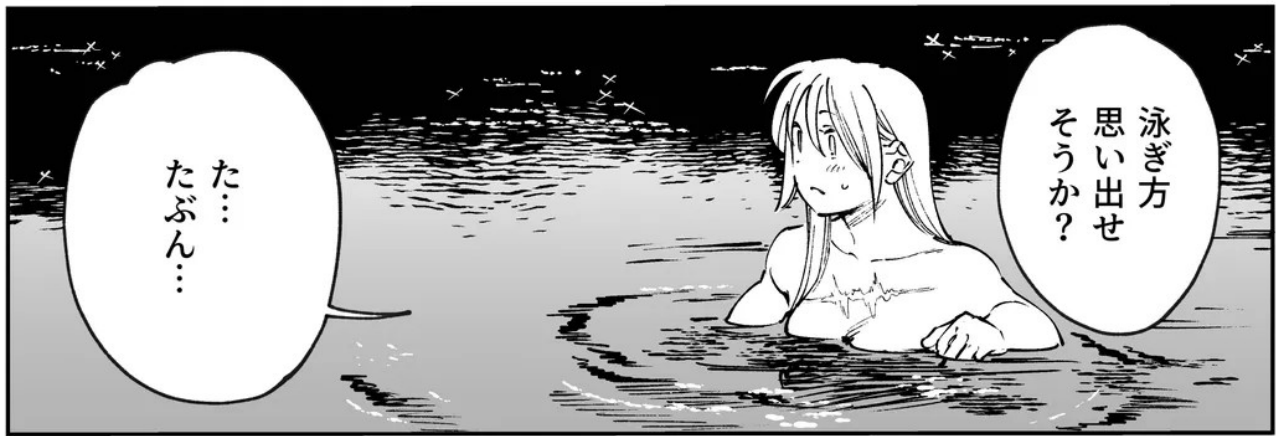
文豪斗春

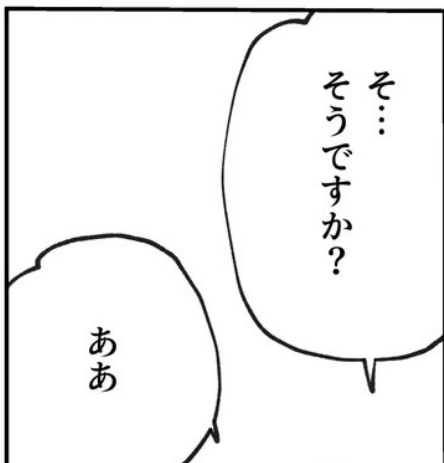
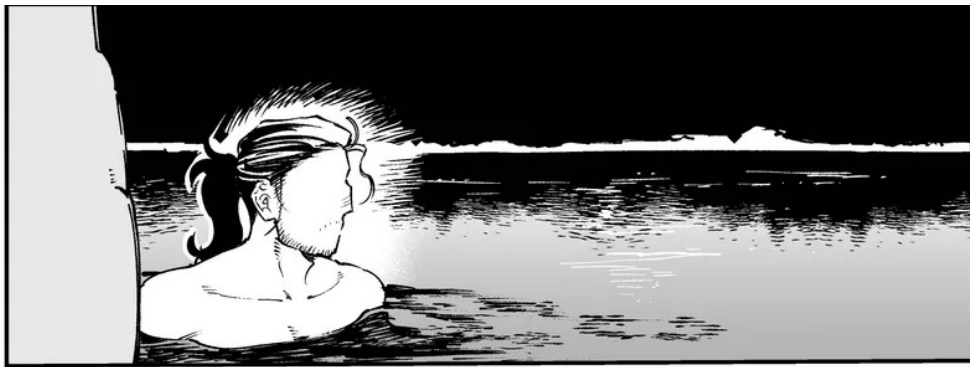




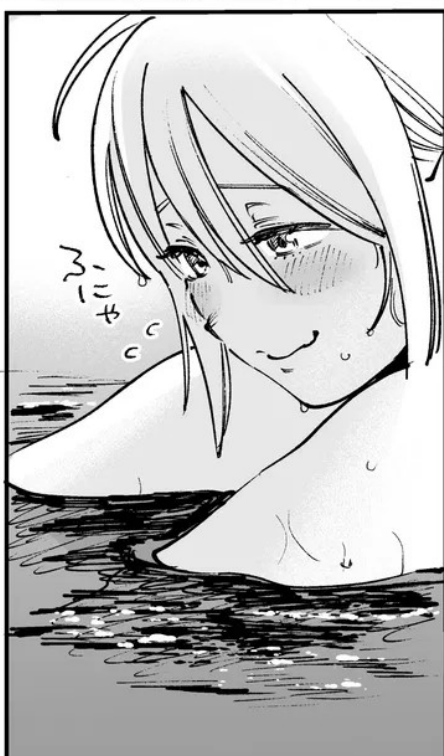




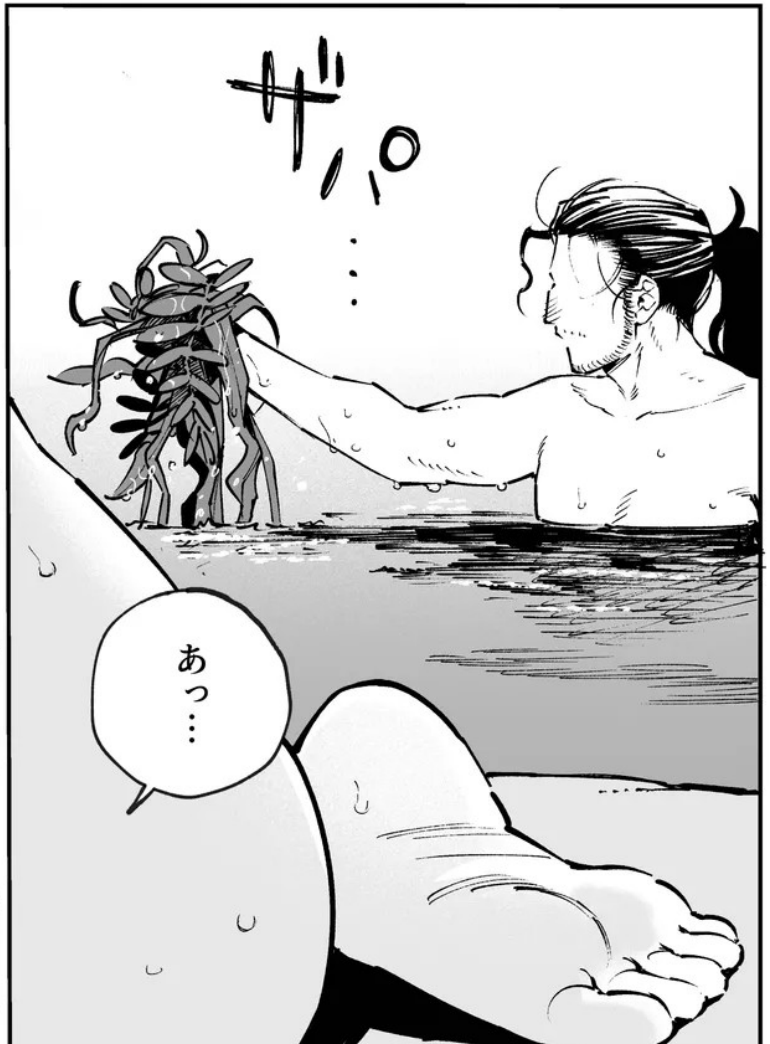
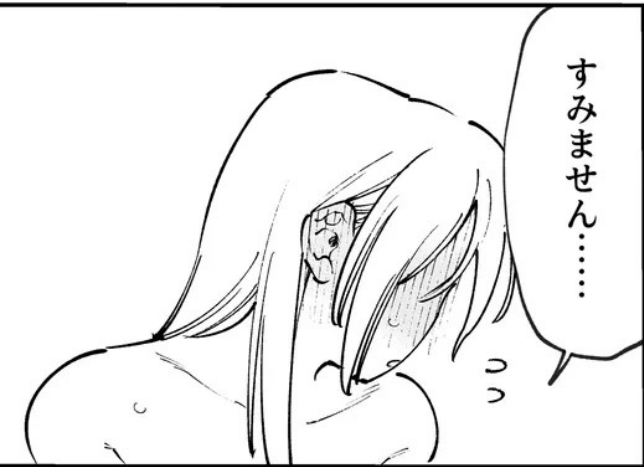
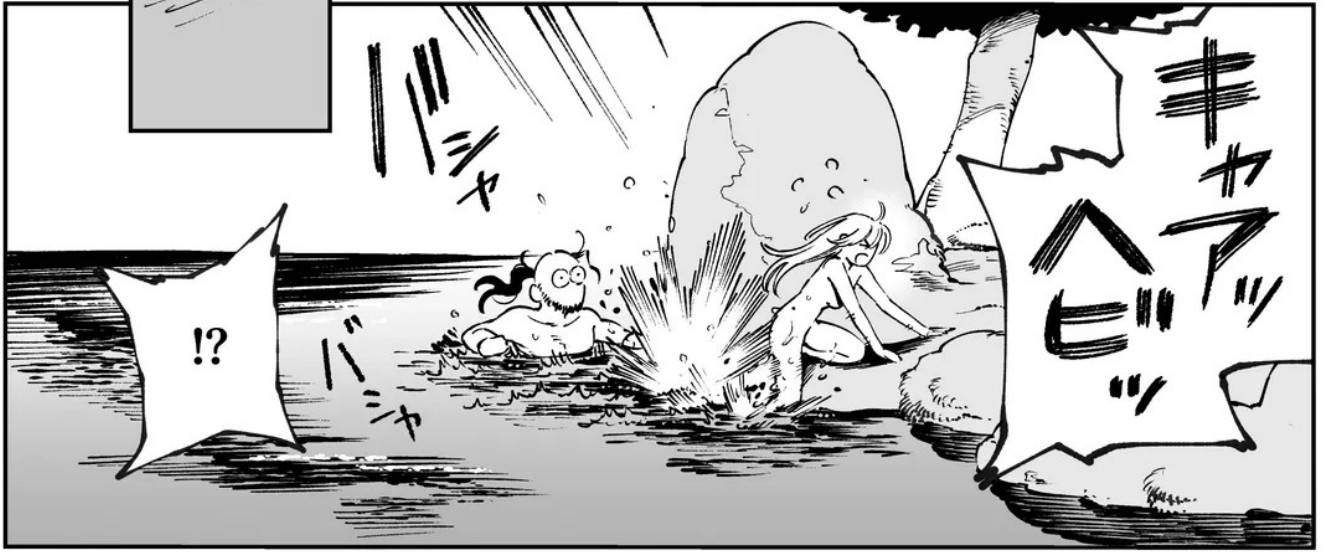
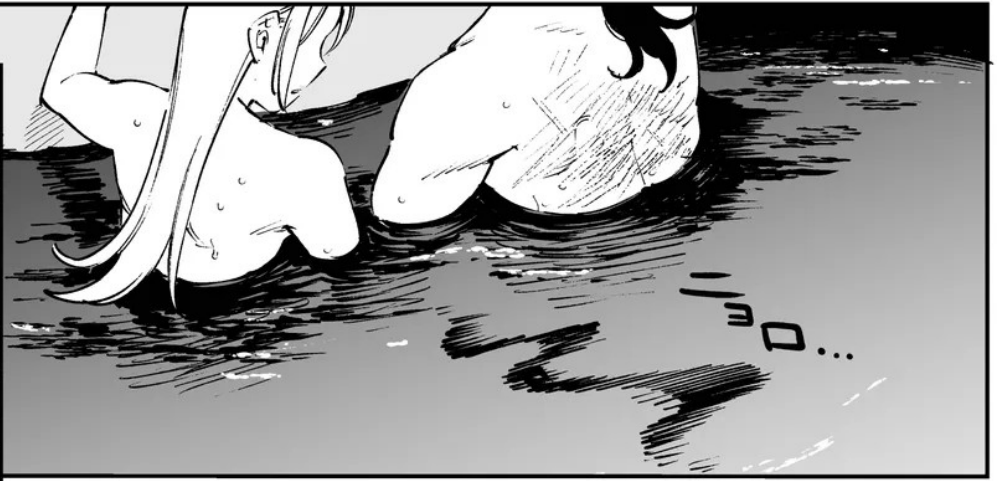




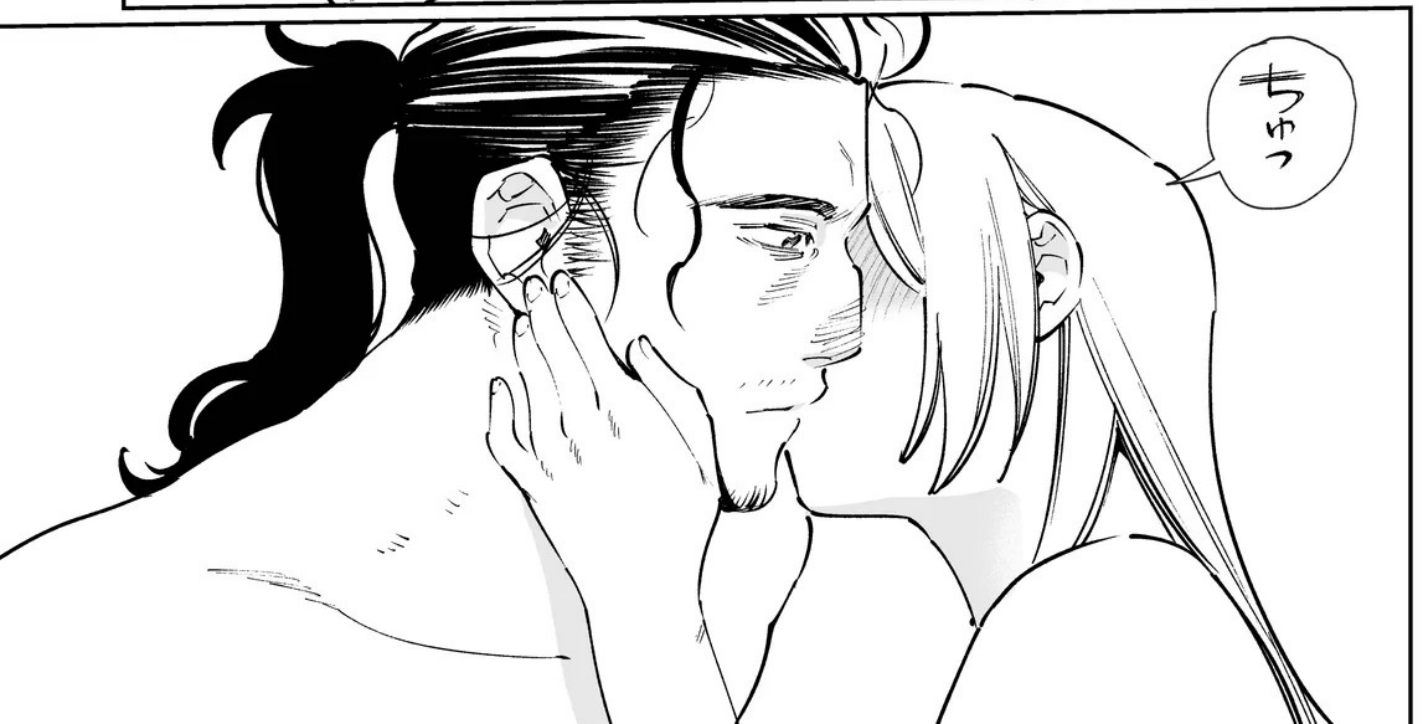
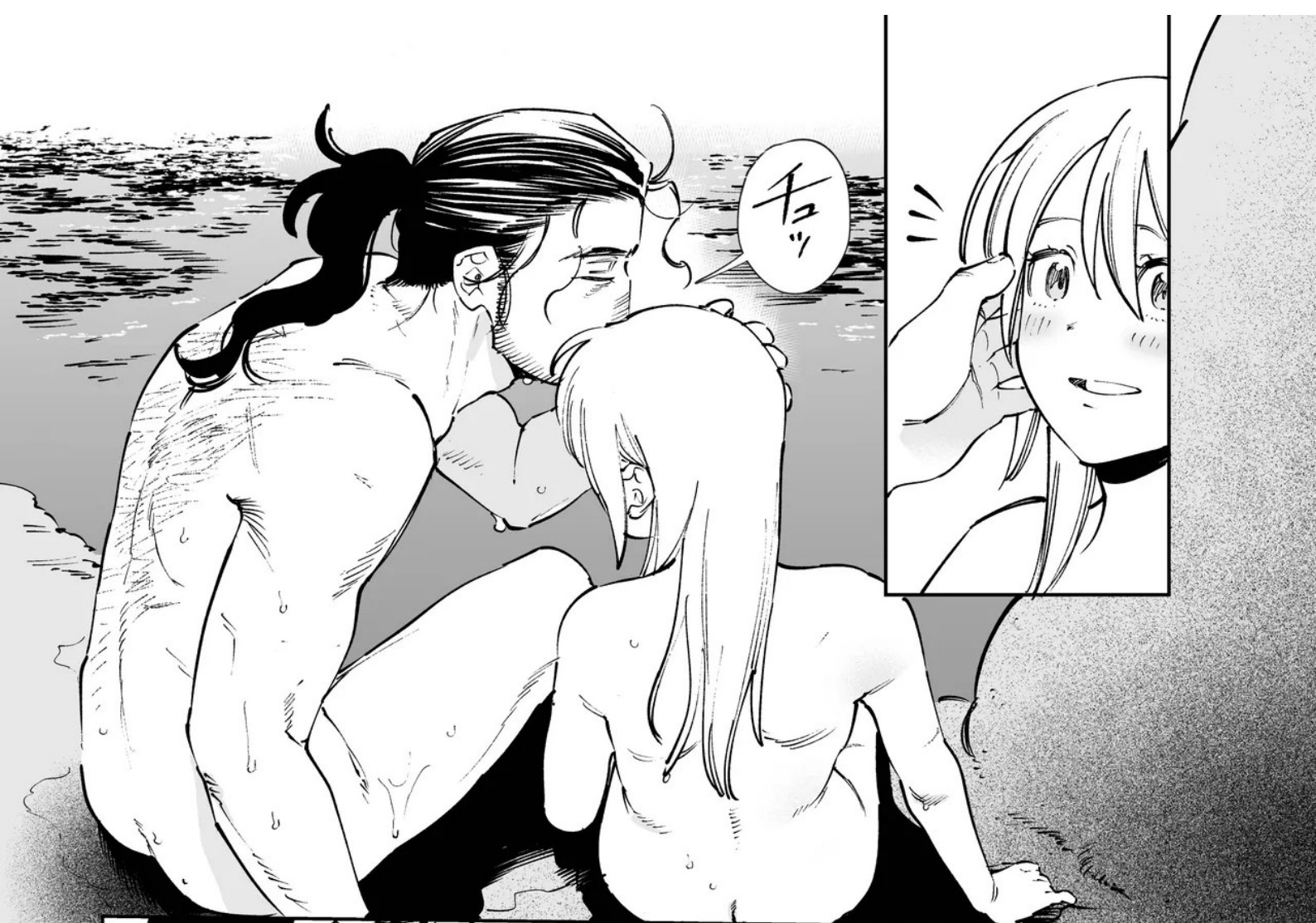
そ...
そうですか?

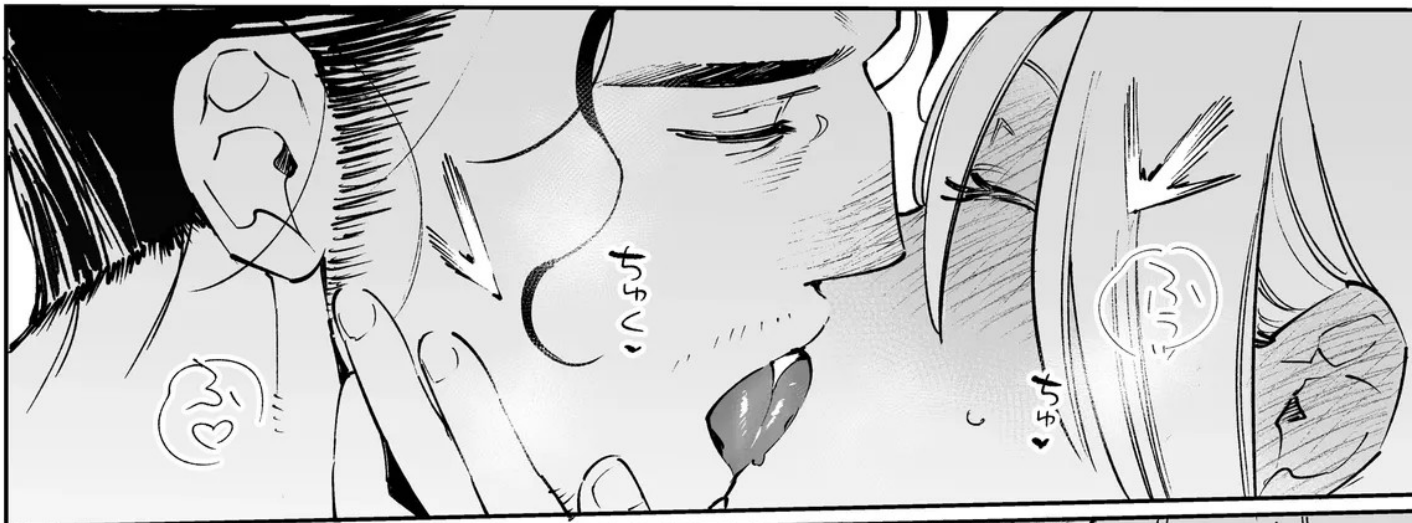
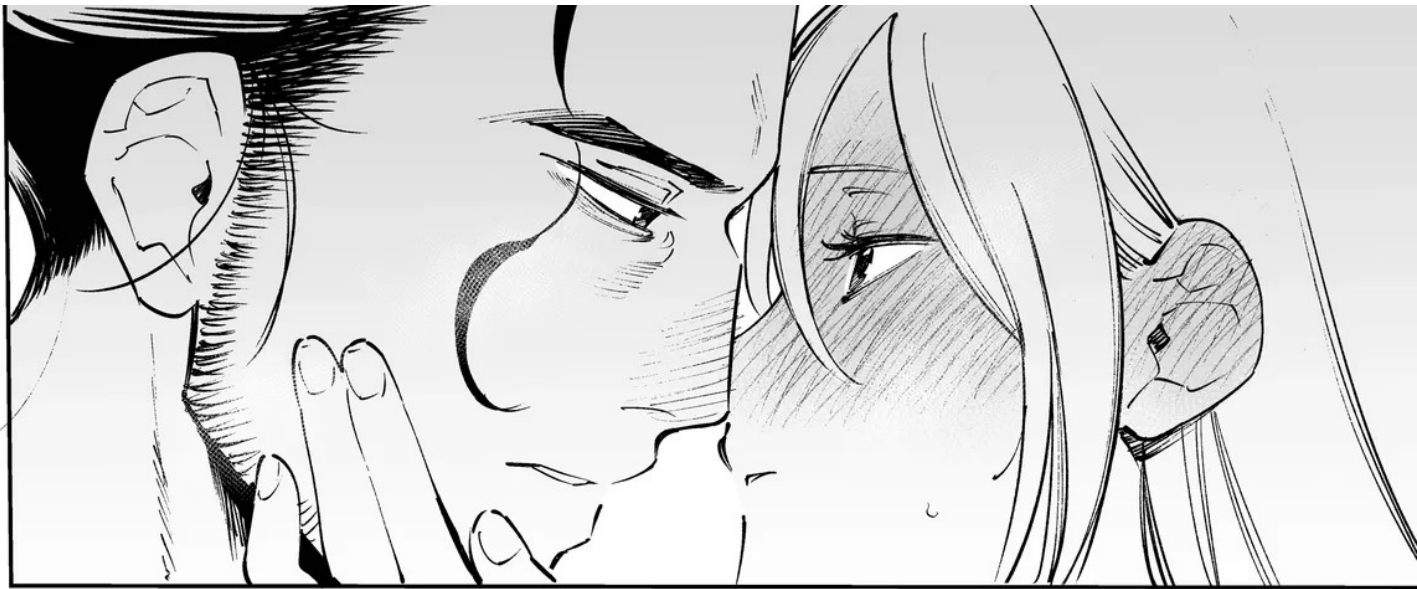


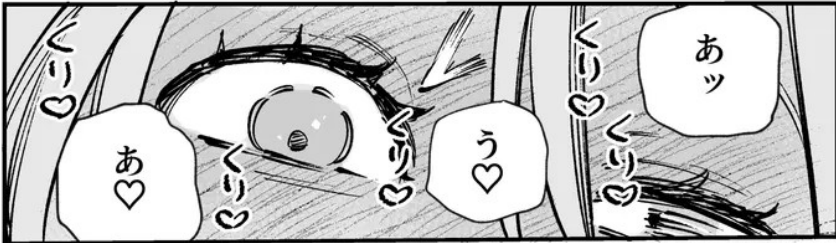
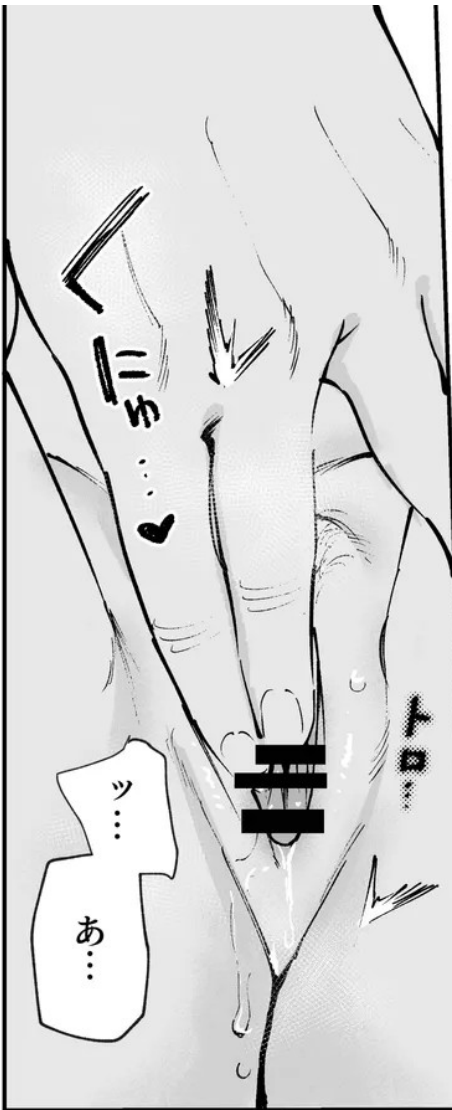
上手い
じゃないか







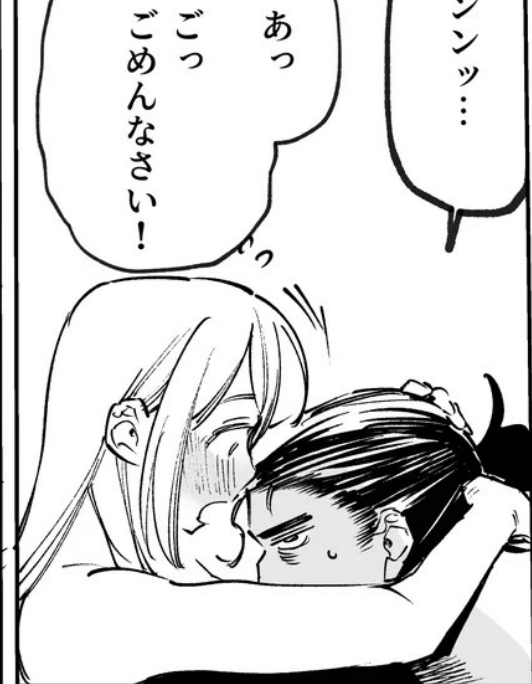




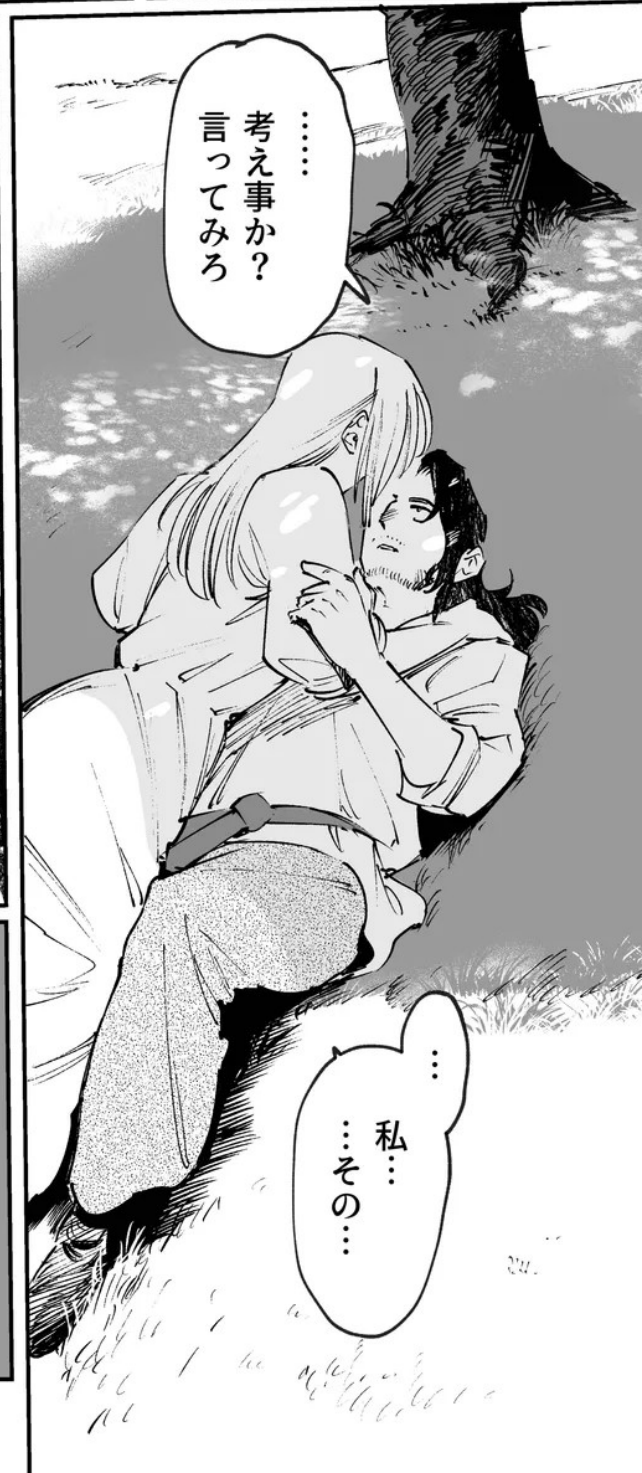
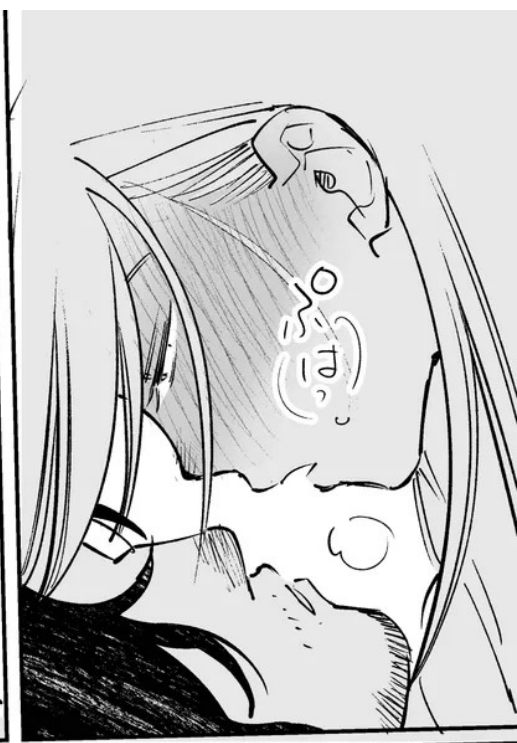










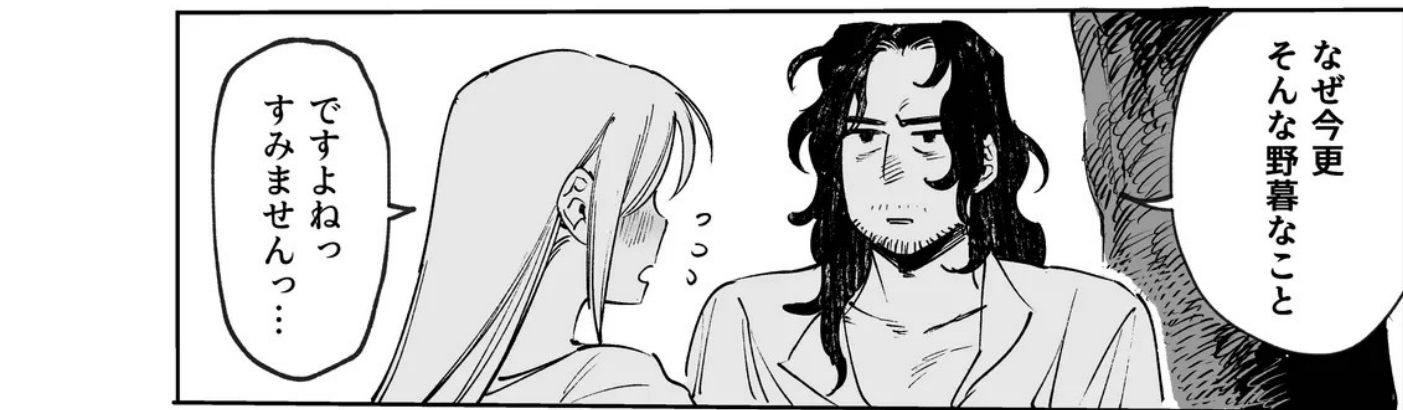




私がついて…
その…
迷惑…とか…
じゃないですか…



あのとき…
「一緒に帰りたい」
とわがママを
言いましたが…



なぜ今更
そんな野暮なこと

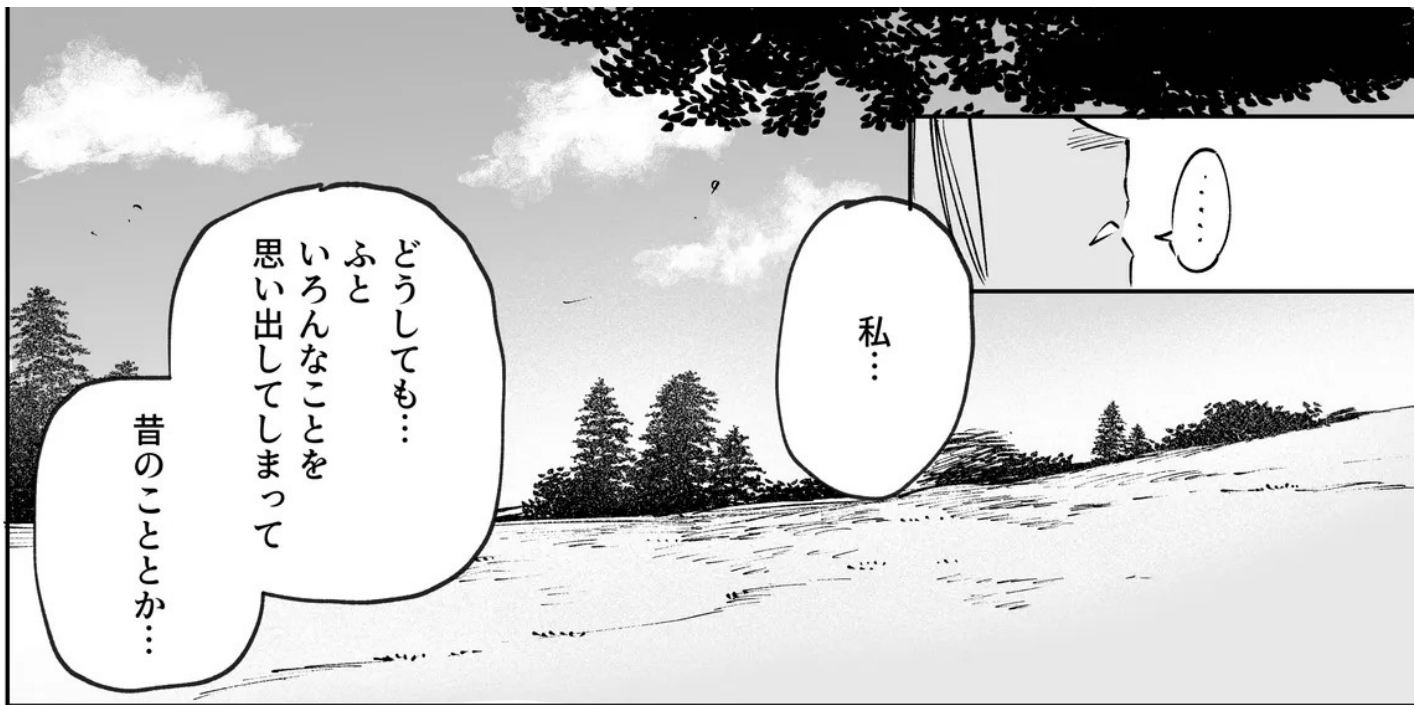
ですよねっ
すみませんっ…



お前こそ…

良かったのか？

これを選んで



どうしても…
ふと
いろんなことを
思い出してしまっ
て
昔のこととか…

私…

…



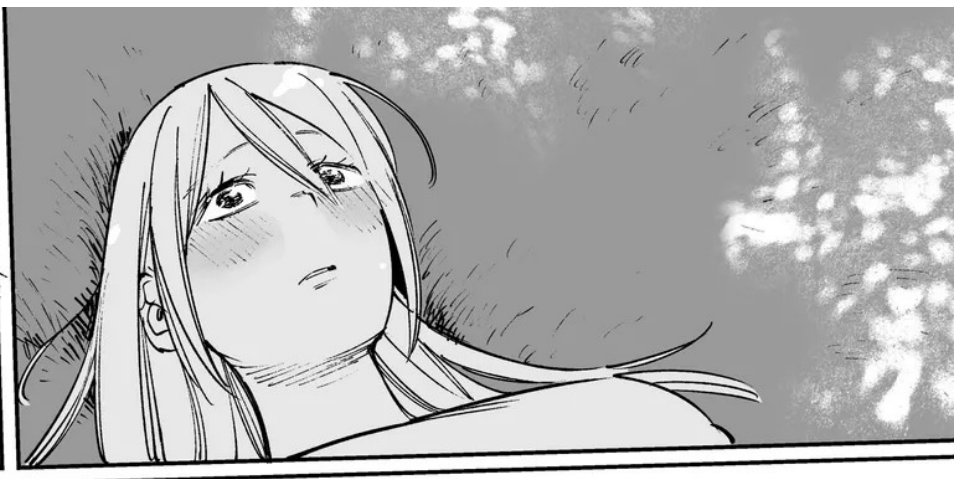
嫌だった
こととか…

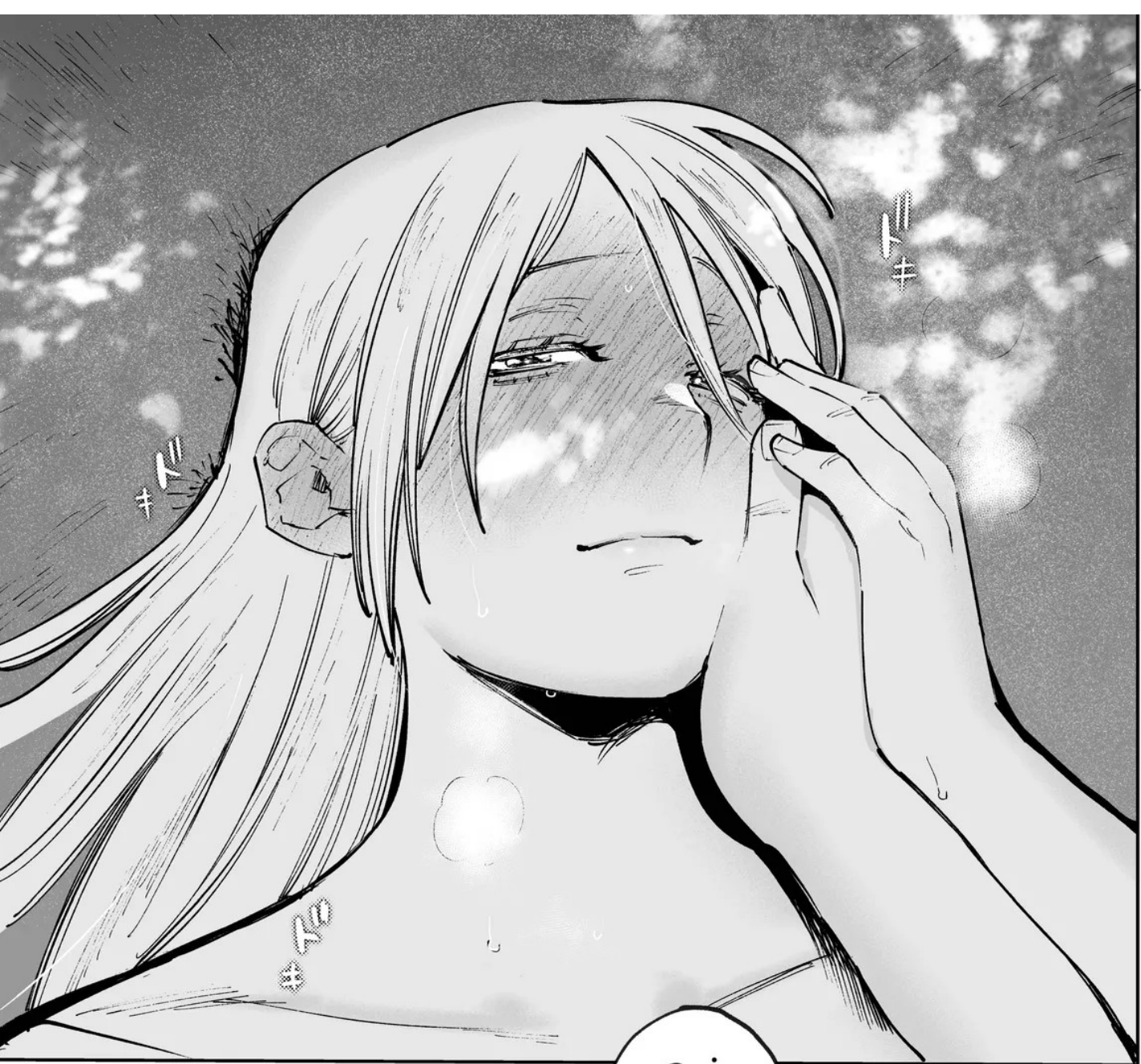


でも
ここに居ると…

それが全部
ぼやけていくような
気がするんです





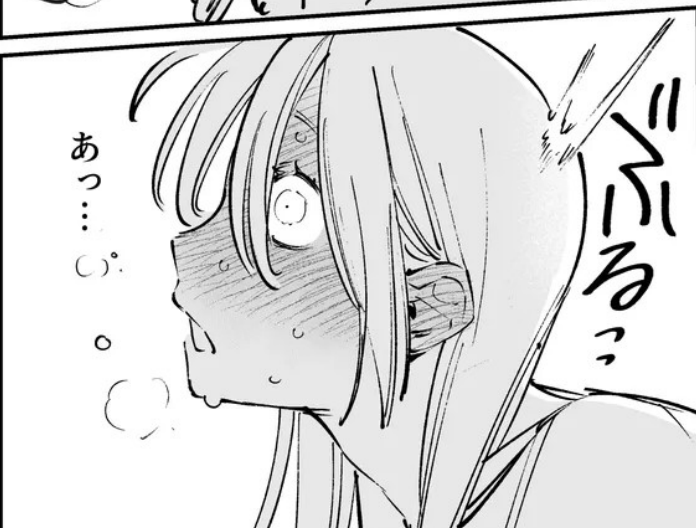


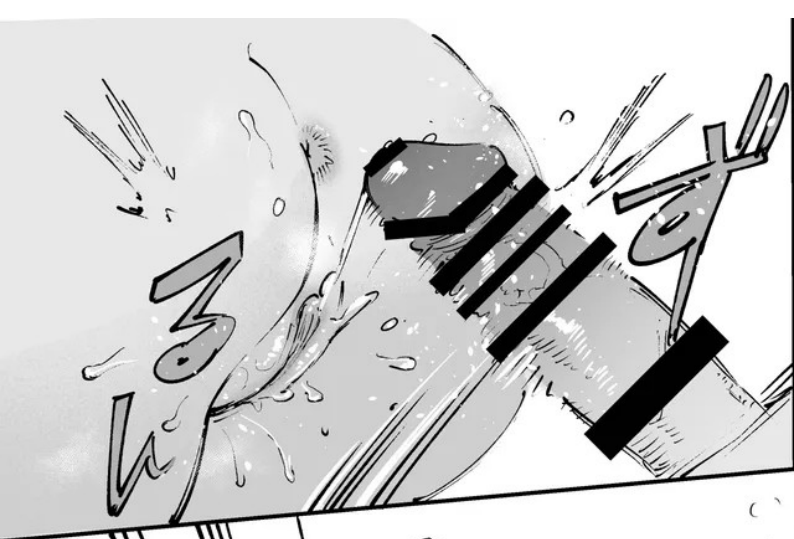
…おんなの
こころ

…したいです







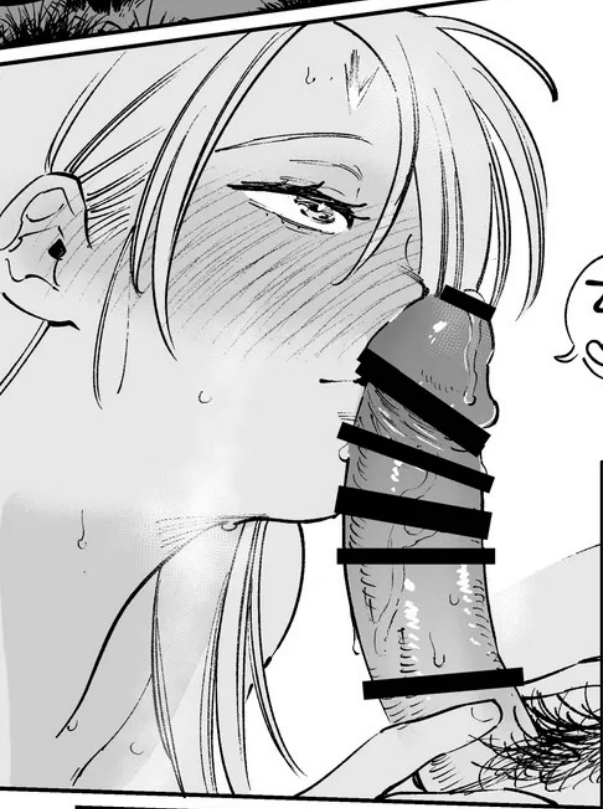
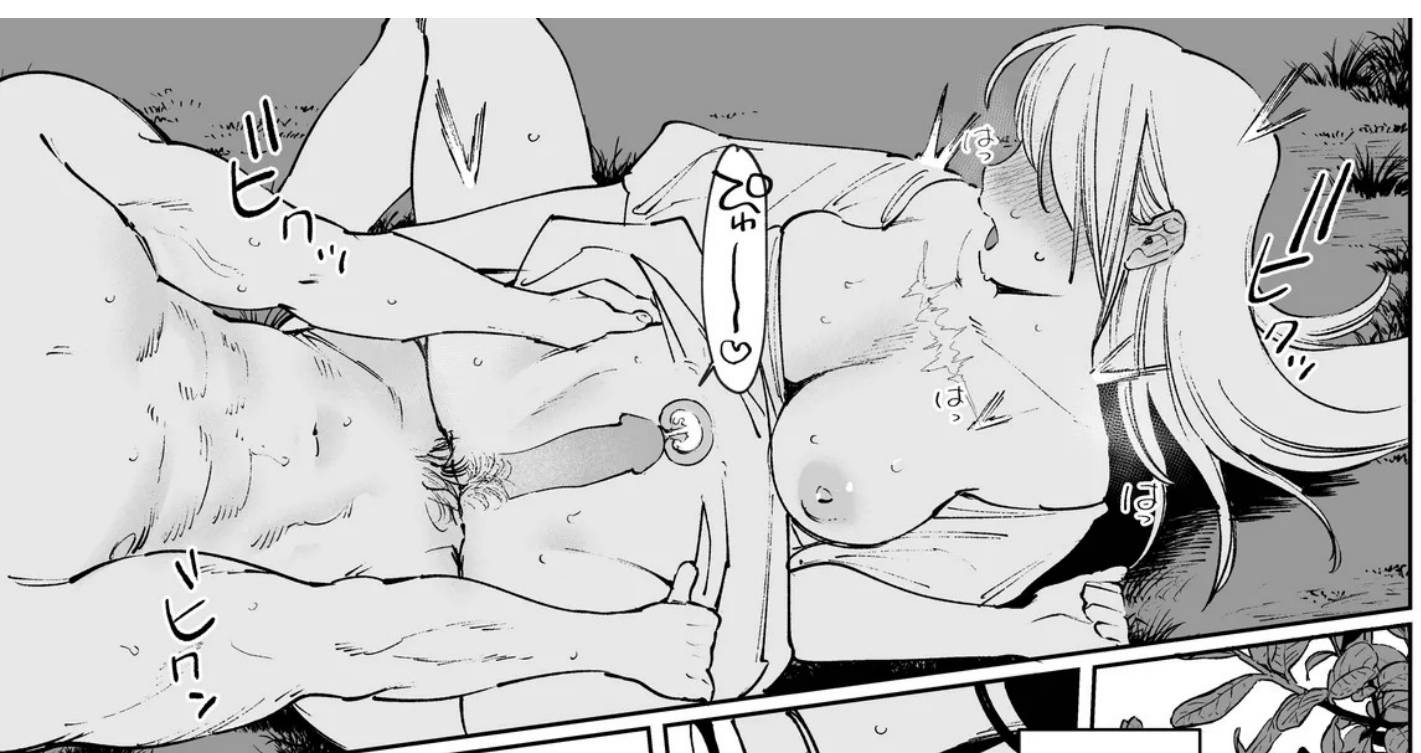


そのあと
私たちは

春風に
包まれながら

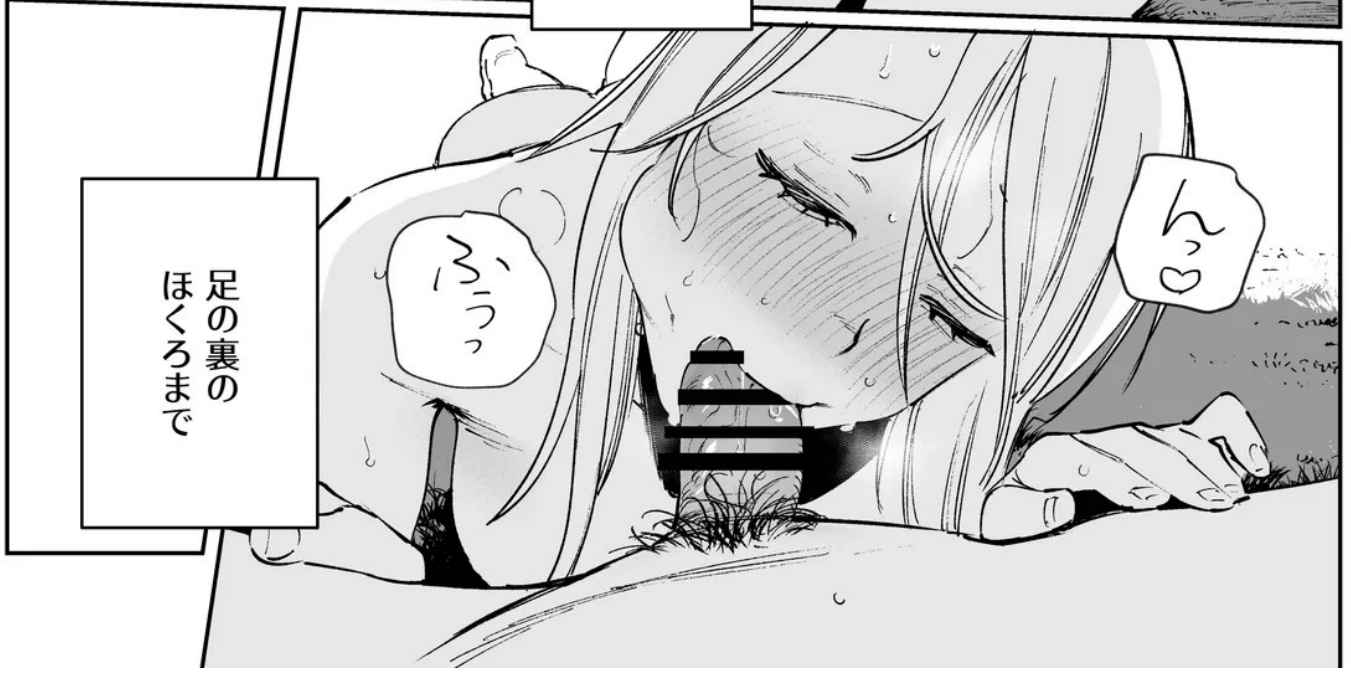
何度も身を
寄せ合いました





顔のシワから

背中の古傷

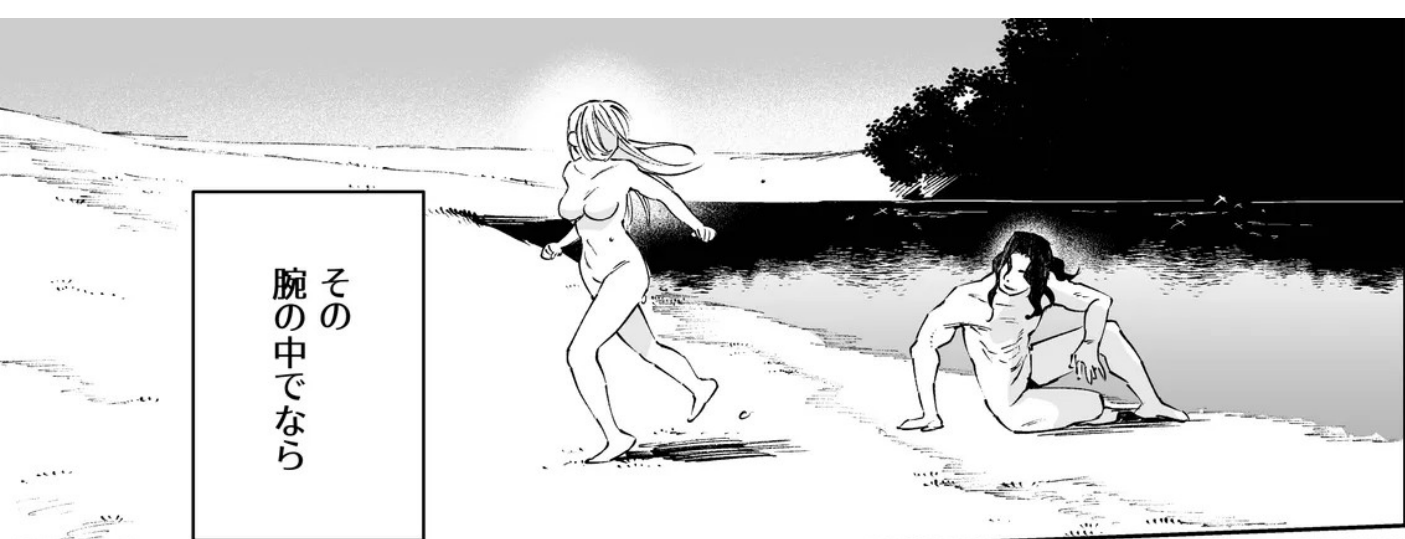


足の裏の
ほくろまで

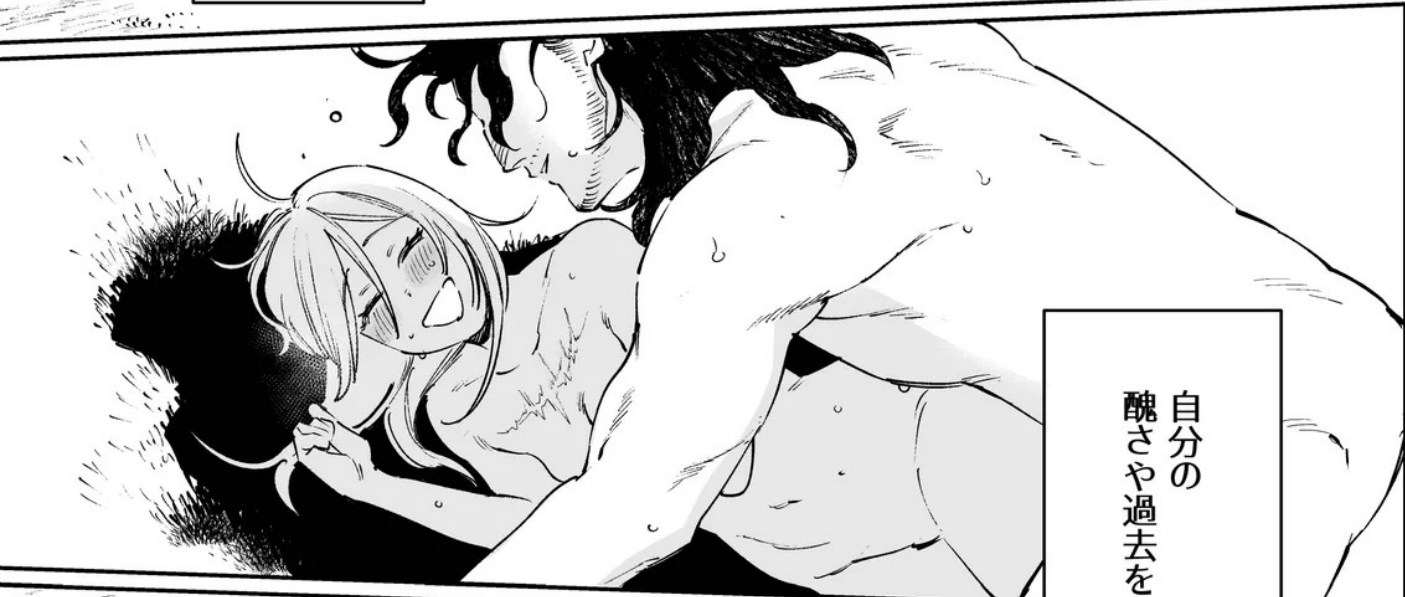


お互いの身体を
隅々まで
知り尽くすように





その
腕
の中
で
なら

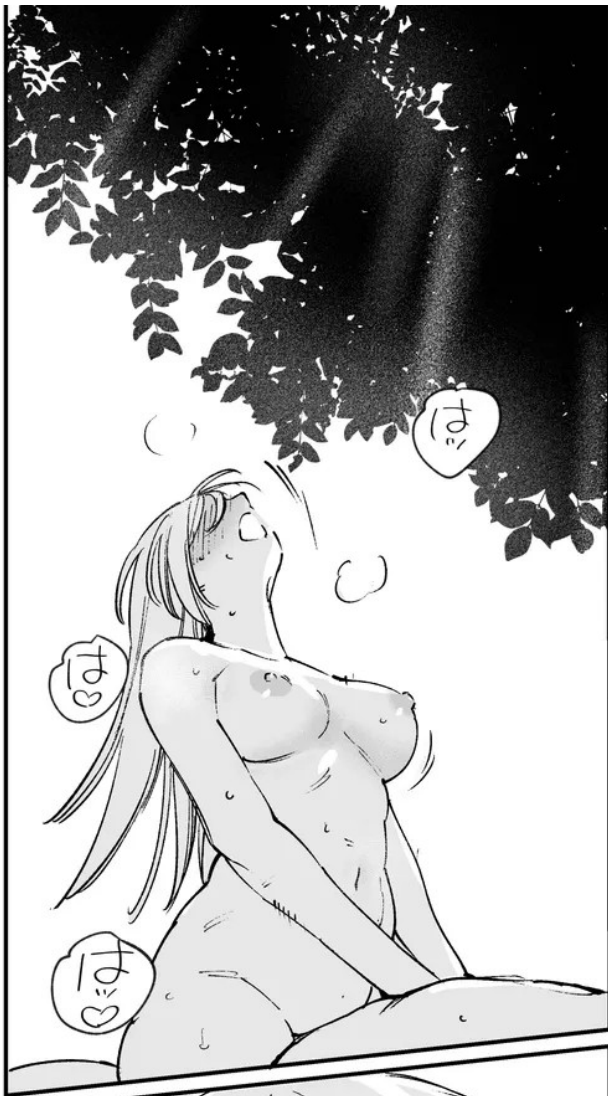


自
分
の
醜
さ
や
過
去
を



忘
れ
て
も
い
い
の
か
も
し
れ
な
い
と
思
え
ま
し
た





男と目が
合うたびに





胸の奥が
きゅつと
苦しくなりました

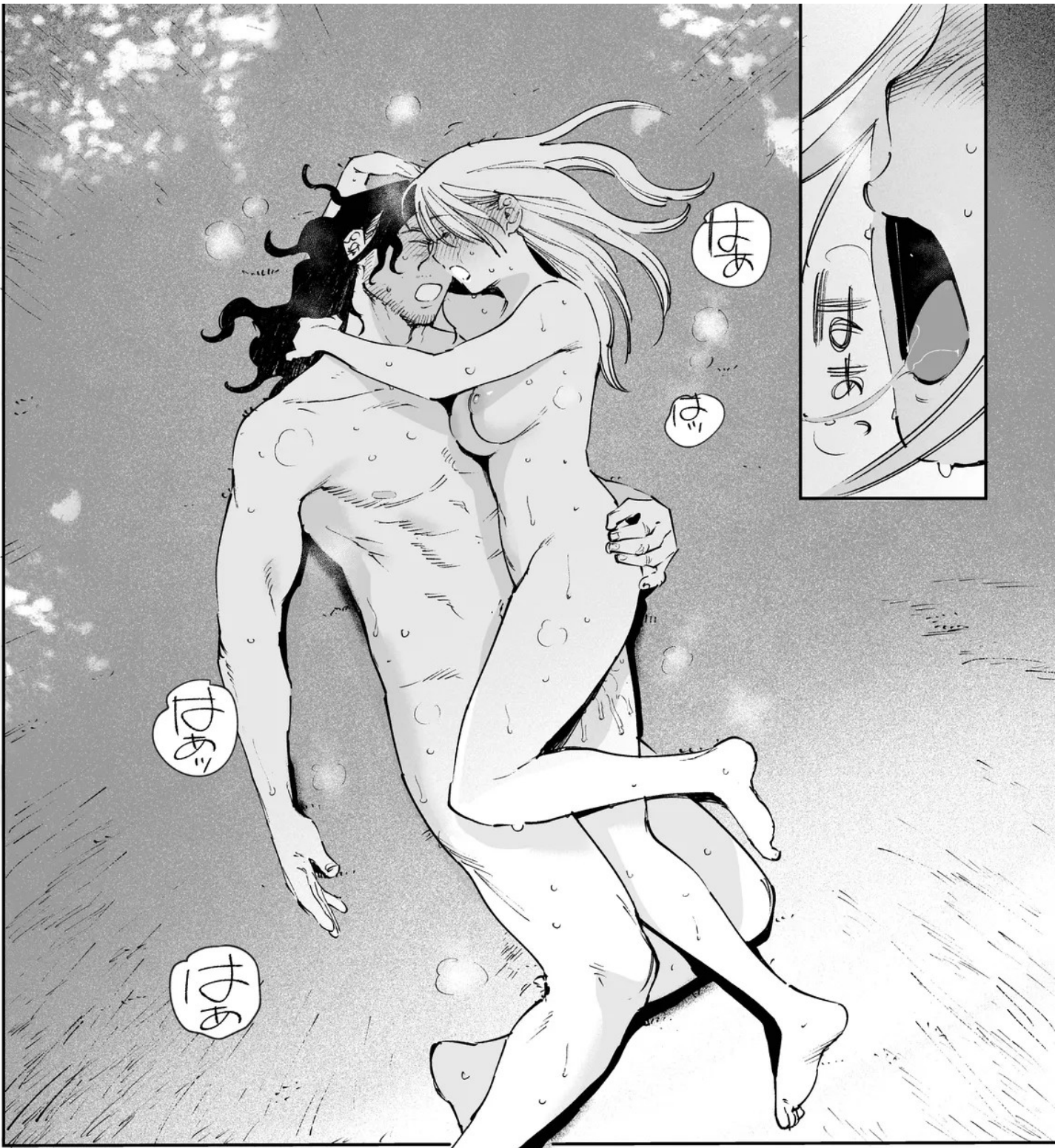


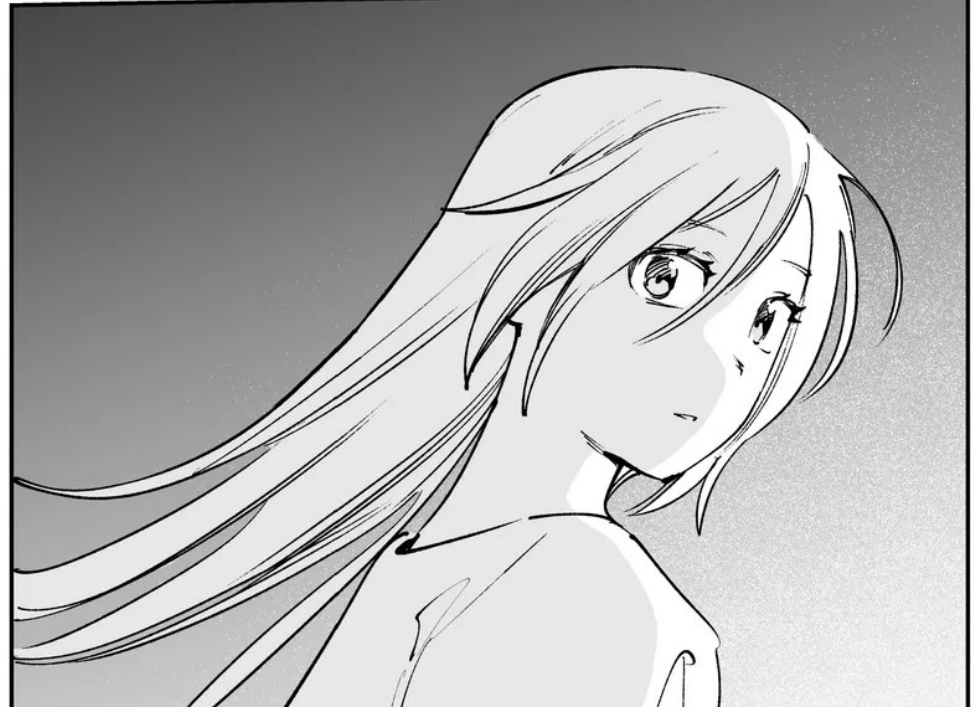
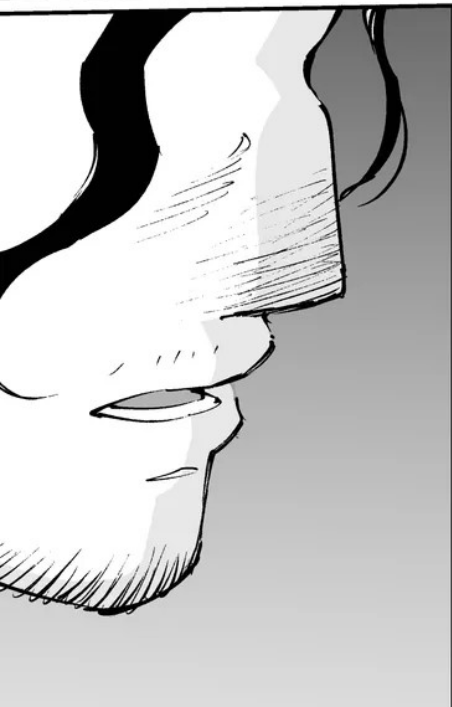
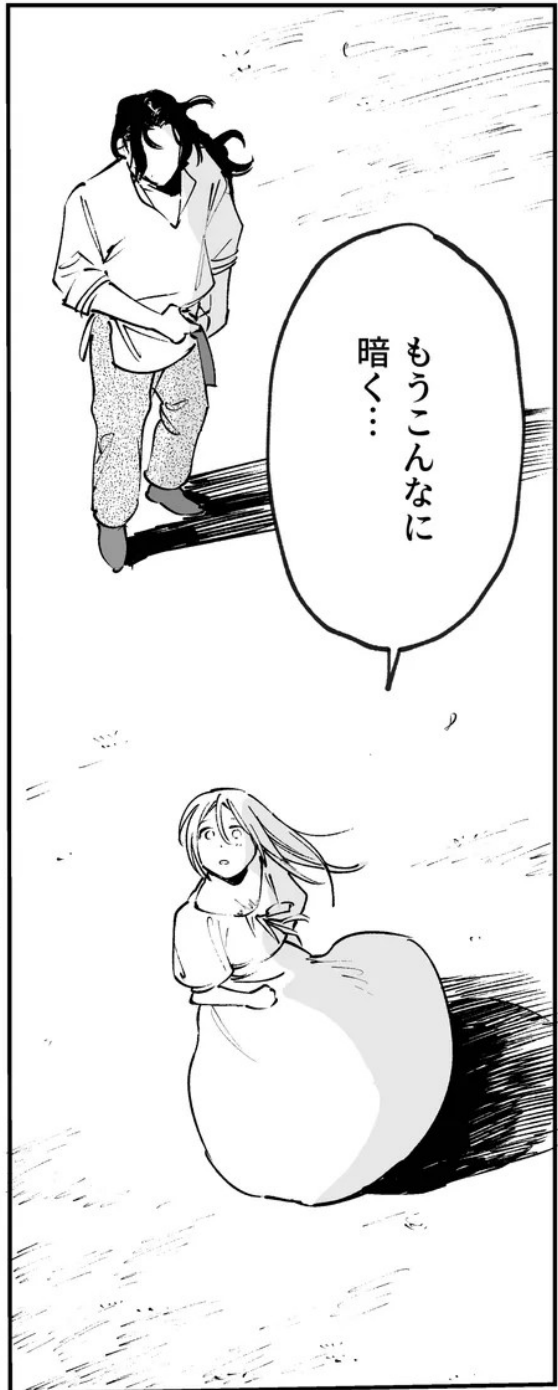
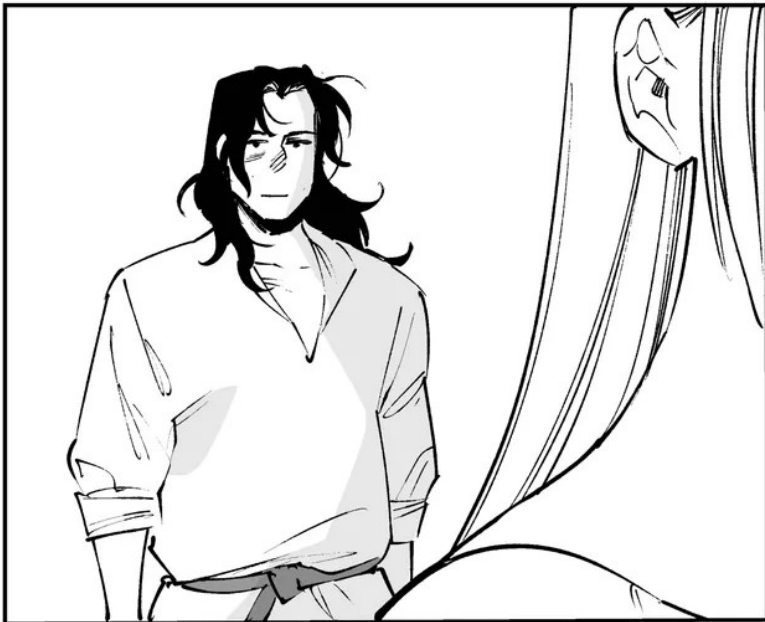
なぜそうなる
のかよく
分かりません

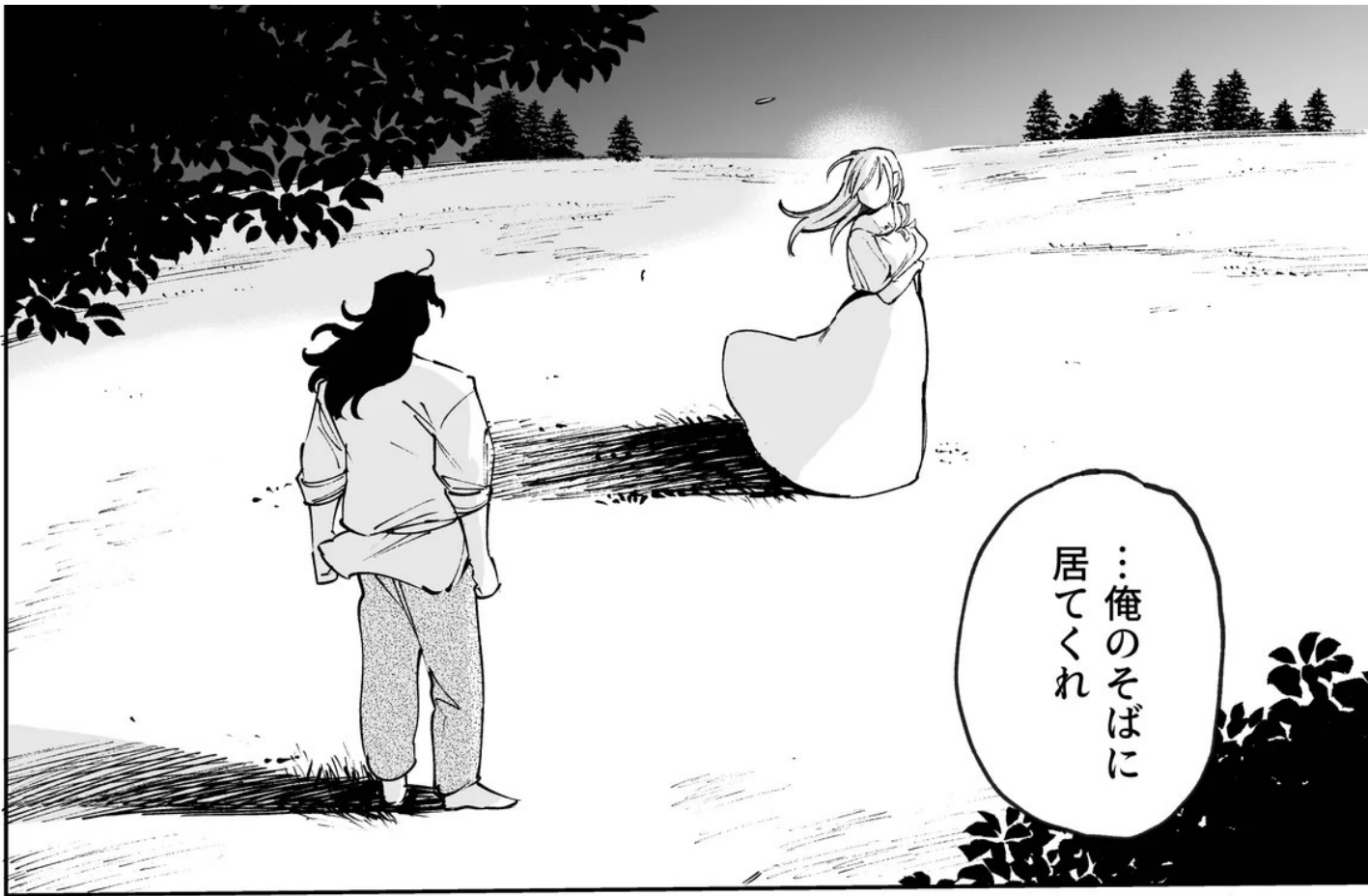
でもあの日
私は――



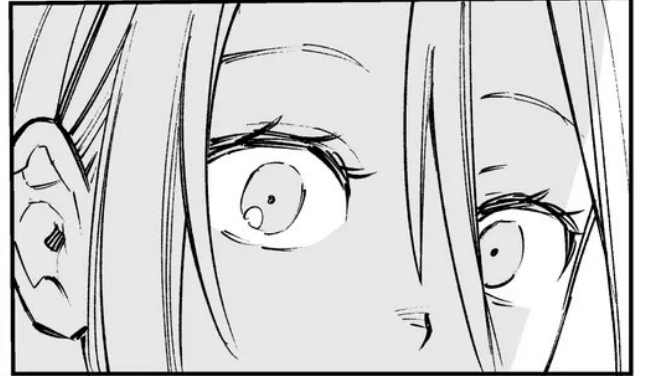
初めて心から
生きていると
感じました



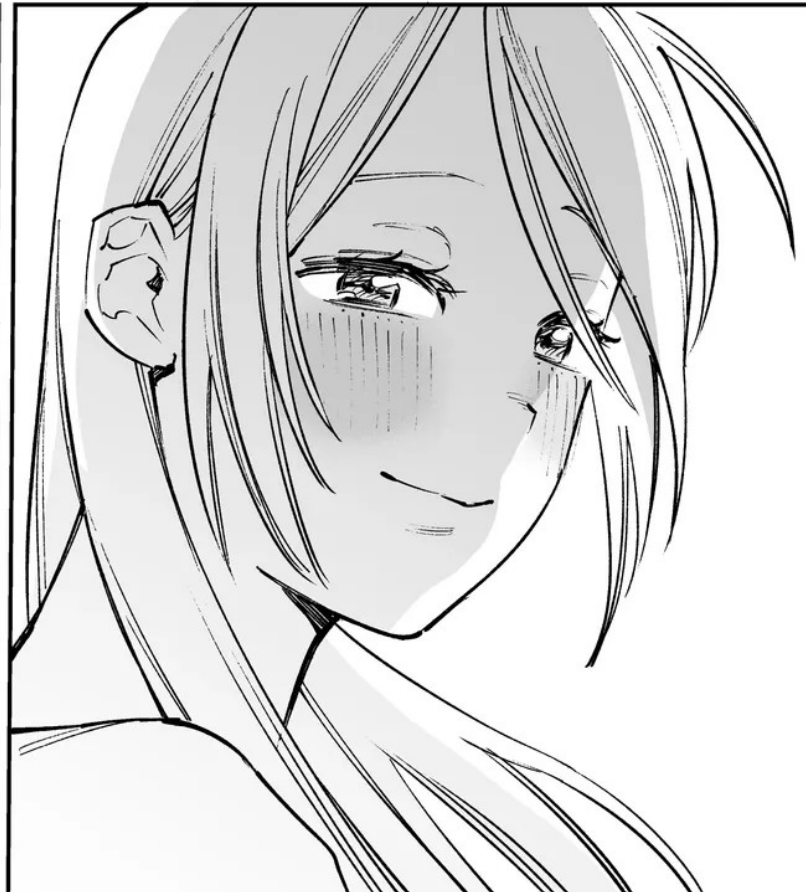




…俺のそばに
居てくれ



ベアー！
帰ろう！





フッ

私たちの家に……



Fin.

メイドと 春

元騎士の狩人と

元娼婦の話



あ と が き

Author's note

どうも、イグドアハです。

「メイデン・春」を手を取ってくださりありがとうございます！
前作の「メイデン」もたくさんの方に読んでくださって本当に感謝でいっぱいです。
続編を本にするほどの需要がなければ自分の妄想で楽しむだけでいいや、と思っていたのでこの本が完成したのは読者の皆様のおかげです。本当に本当にありがとうございます…！

自分の予想以上の反響だったのもあり、その期待に応えられるような続編になれてるか！？
と何度もプロットとネームを描きなおしたり迷走したりしました。
本業との兼ね合いもあり、結局完成に約2年かかってしまいました…。
長らくお待たせして大変申し訳ないです。

前作のあとがきに「続編を描くならエッチばかりしてる話にしたい」と描いたので、元々は後半の春パートのみの構成でやるつもりでしたが改めて一作目を読み返した際、この二人まだ心が開き切っていないな…
と思いうひと悶着起こそう！！となりいろんなシナリオがボツになりました。
ヘレナがロマンの髭を整えてあげたり、二人でロードムービー的なものをやったり、
ロマンの過去により詳しく言及してみたり、新キャラの当て馬(男)が登場したり…
迷走しすぎてしまいはロマンを死なせるのもアリなのでは！？となっていました。(死ななくてよかった…)
前作を余白を多めに作ったのもあり、どこまで情報を開示するかとても悩みました。
その中で自分が一番表現したいもの考えたときに、二人が心を通わせてるところを見たかったので
少しでも過去から開放することにピンと当てました。

最終的にこれだ！！と思えるネームが生まれ、今作が完成しました。
それでもページ数の多さと制作期間の長さ故にまたほんとにこれでいいのかと迷いが生まれたり…
マンガって難しい…思い立ったらササッと描くに限るなあと改めて思いました。
なので完成してホッとした気持ちでいっぱいです。

ロマンのどんどん柔らかくなっていく表情と楽しげなヘレナが描いていてとても楽しかったです♡
この二人がこの先もずっと幸せなものだといいな……

もしまたこの二人で何か描きたくなったときは恐らく現パ口になると思います。
(既に短編の現パ口漫画もありますので興味あれば是非…♡)

次はそろそろ抜き特化な新しいお話も描きたいな～と思っているので
機会があればまた是非よろしく願いいたします！

最後まで読んでくださりありがとうございました！

イグドアハ

メイデン・春

発行日 2025.6.1

発行者 イゲドアハ
mail igedoahahaha@gmail.com
X maouchandayo

印刷 K9
表紙デザイン mm design 幌

前作 「メイデン」
はこちらから→



番外編の
現代パロディ
「メイデン現パロ妄想漫画」
はこちらから→



マシマロはこちらから→
感想をいただくと
とても励みになります!
よろしくお願いいたします。



当サークルの作品は
無断転載・複製・転売・アップロード
は禁止です。

